

# 就職特集

## “知つておきたい社会人心得”

### 就職支援と広中レポート



**小宮 克弘**

大学教育機構

学生支援センター長

(大学院理工学研究科 教授)

#### 学生支援のバイブル

冒頭から私事で恐縮ですが、私は本年4月に学生支援センター長に就任しました。就任に際して3月までの前センター長から、「これは必ず読んでおくように」と言われて学生支援に関する一冊の報告書を渡されました。

「学生支援」とひと口にいってもそれは多岐にわたります。学習支援、就職支援、経済面（授業料減免や奨学金）での支援、課外活動や自主活動に対する支援、悩みごと等に対する相談、健康管理面での支援などがあります。学生に対するこれらの広範な支援を包括して「学生支援」という言葉で呼ぶようになったのは今から10年ほど前のことです。

平成11年から12年にかけて、当時の文部省に全国の大学等から有識者を集めて学生支援に関する調査研究会が設置されました。この研究会の座長を務めたのが当時の山口大学長・広中平祐先生でした。この研究会の報告書はその後「広中レポート」と呼ばれるようになり、現在に至るまで全国の大学で学生支援に携わる者の間で学生支援のバイブルとして読まれています。

私が前センター長から渡されたのはこの広中レポートでした。

#### ①正規授業との連携

共通教育の授業科目として「キャリアデザイン」や「キャリアと就職」などを開講し、学生たちの職業意識の向上を図っています。学生たちが明確な職業観をもつことによって、現在社会問題にもなっているニートやフリーターの抑制にも貢献できると考えています。またこれらの授業の担当教員が就職支援室に常駐することによって、授業と連携した就職支援を行っています。

#### ②学外機関との連携

県の組織である山口県若者就職支援センターの支所を山口大学構内に開設しています。「YYジョブサロンin山大」と名付けて、専門のキャリアカウンセラーが学生たちの就職支援に当たっています。また、教員や公務員の受験対策講座などの開講では山口大学生協と連携しています。

#### ③学内業界・企業研究会

毎年12月から翌年の2月にかけて実施しています。各種の企業・官公庁・団体等の関係者を山口大学に招いて、学生たちが幅広く業界・企業を研究し、就職活動ならびに自身のキャリア形成に役立てることを支援しています。本年度

2000/06 答申等
<b>大学における学生生活の充実方策について（報告）</b> <b>—学生の立場に立った大学づくりを目指して—</b>
<b>はじめに</b> <small>昭和33年の学徒厚生審議会答申において、大学では、「知的・専門技術的な教養研究を行う」正規教育と並ぶものとして、「学生生活の環境的条件を整備するとともに、学習活動の具体的な場面に即して、各学生の主体的条件に適応する教育指導を行うことによって、その人格的形成を総合的に援助する」上級外教育の役割の重要性を強調している。</small>
<small>この答申は、まさに大学の大学化が叫まうとする時代において、既に、学生の質的变化を踏まえ、学生の人格形成に対する大学の責任を述べたものであるが、それから40年以上を経た現在に至ります。この点に対する大学の役割が埋れてきたことは否めない。</small>
<small>このことは、大学における主なは教授研究を行なう教員であり、学習する側である学生が常に協役であらねばならないこと無義ではない。</small>
<small>本調査研究会は、近年の社会環境の変化や大学進学率の上昇などに伴い、多様な能力や適性を有する学生が大学に入学している状況に適切に対応していくことが必要であるとの認識に立ち、学生を中心と捉えて、大学における豊かな学生生活を実現するための方策について、昨年7月より10回にわたりて討議を重ねてきた。今回、その検討結果をとりまとめて報告するものである。</small>
<b>大学を巡る状況及び今後の方向について</b>
<small>1 大学を巡る状況</small> <small>戦後、大学・短期大学進学率は戻ね上昇を経て、今日では50%に迫るまでになっている。このような進学率の上昇により、現在、資質・能力、知識、興味・関心などの面で、極めて多様な学生</small>

#### 広中レポート

#### 山口大学の就職支援

そのいくつかを紹介します。山口大学には就職支援室があります。本誌掲載の室長による寄稿も参照してください。



就職支援室とYYジョブサロンin山大

は約300社を招き、吉田キャンパスだけでなく常盤キャンパスでも開催予定です。これは山口大学が他大学に誇り得る一大イベントです。

#### ④学生による自主企画

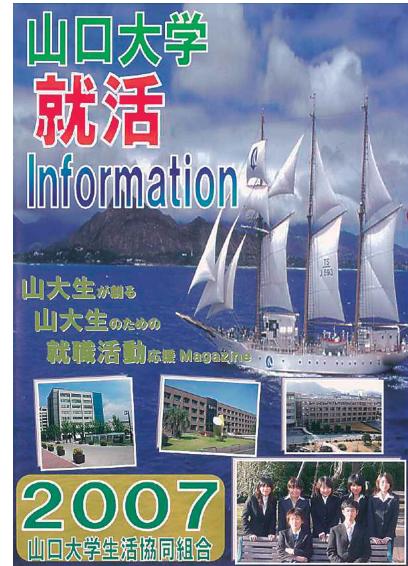
毎年夏と秋の2回、学生たちの企画によって「就職活動交流会」を開催しています。就職活動を終えた4年生とこれから就職活動を始める3年生以下の交流の場です。また学生たちが編集する就職活動体験報告集「就活Information」も毎年発行しています。

⑤以上は全学企画の支援活動ですが、学部独自の就職支援もあります。また、学生支援センターと各学部の就職担当委員からなる

「キャリアデザイン委員会」では、就職支援の基本計画の策定や予算配分、情報交換などを行っています。

### 再び広中レポート

広中レポートに次の二節があります：学生の立場に立つといつても、それが学生の短期的な満足のみに応えるような迎合的なものであってはならない……。まさしくここに就職支援をはじめとした学生支援の難しさがあります。普段はおふくろのような温かい眼差しをもって学生たちに接しながらも、ときにはおやじのような厳しさで臨まねばならないときもあります。私は本誌84号に山口大学の学生支援のあり方を「ときにはおふくろのように、ときにはおやじのよう



就活Information  
(山口大学生活協同組合発行)

に」と書きました。これは広中レポートの件の一節を敷衍したものです。

学生たちには明確な職業観のもとで自ら考え、自ら選択し、自らの責任において就職していく主体性をもってほしいと思っています。山口大学の就職支援は単に卒業の時点で就職が決まっていればよいという短期的満足のためではなく、その後の早期離職やニートやフリーターの抑制まで視野に入れた長期的視点に立ったキャリア形成のための支援です。

#### 学内連絡先

TEL : 083-933-5057 (センター長室)  
083-933-5655 (理学部研究室)  
E-mail : komiya@yamaguchi-u.ac.jp

# 就職支援室はどんなことをしているのか



鴨崎 義春

山口大学就職支援室長

(学務部学生支援課 課長補佐)

「就職支援室はいつ頃が忙しいの？」とか、「今から大変でしょうね」とか、教職員の方から時々尋ねられます。確かに、12月から2月にかけて300社以上の企業様に参加いただいた開催する「学内業界・企業研究会」の開催を控えて忙しくなると言えばそうなのでですが、実際のところはほとんど一年中忙しいというのが正直なところです。

## 「就職活動」の実際

多くの学生さん（以下、「学生」もしくは「人」と書かせていただきます）は、3年生の秋から私どもが開催する各種就職支援企画に参加したり、各種就職サイトから気になる企業へプレエントリーしたりと「就職活動」を開始します。会社説明会参加、エントリーシート・応募書類提出、筆記試験、面接試験と段階を追い、やがてめざす企業からいわゆる内々定を獲得することができれば、まずは順調な就職活動だったとなるわけですが、現実はそうたやすいものではありません。

多くの方から、「最近は求人が増えているのでいいでしょう」と言われます。確かに求人状況はかなりよくなっています。いわゆる大企業から内定を得る確率は高くなっていますし、卒業まであきらめずに頑張っていれば就職できる確率も高くなっているのは間違いません。その点ではあります。

いことです。就職活動は、学生一人ひとりにとって大きな自己成長を実現できる場でもありますし、「就職活動を楽しみながら」内定を獲得する学生さんもいます。

しかし、就職活動が楽になったのかと言えば決してそうではないと言うのが現実です。

厳しさの原因は、多くの企業が採用数は増やしても採用基準は大きくて下げていないところにあります。このため、いわゆる志望動機のあいまいな学生は何社受けても内定に至らないことがあります。学生生活の幅がせまい場合や表現力・コミュニケーション力の充分でない場合も、特に面接の場などで「苦戦」します。

## 増え続ける「就職相談」

山口大学における就職支援業務の特徴として、キャリア教育との連携、個別対応・個別相談の重視があります。キャリア講義の受講者は1年生で約500人、3年生で約900人になります。もう一つ、国立大学としてはかなりの規模となる学内業界・企業研究会開催をコアとしつつ、あらゆるニーズに応えるきめ細かな企画の展開も大きな特徴と言えます。個別相談件数について言えば、毎年大幅な伸びを示しています。ちなみに、2004年度に439件であった個別相談件数（概ね30分以上の相談等のみをカウント）は2006年度には1348件となっています。この他、週2日

実施している山口県若者就職支援センターのキャリアカウンセラーによる個別相談も2006年度で531件あり、やはり大幅増となっています。また、このところ増え続けている就職支援室への来訪企業との対応もできるだけ丁寧に行い、学生に必要な情報等を引き出せるように努めています。なお、各企業人事担当者からは、本学学生に対して「真面目で優秀」「積極的」「入社後、確実に成長してくれる」等とかなり高い評価をいただくこともあります。学生の皆さんには山大生として、もっともっと自信を持って就職活動に臨んで欲しいと思います。

## 継続的にサポート

初めて就職支援室を訪れた学生に、「エントリーシートの個別添削できますよ」「面接練習会を毎週2回開催していますし、明日企業面接だからというような時は、予約なしでも対応しますよ」などと話すと、たいていの学生が驚きます。

聞きたいことがある、相談したいことがあると言いながら、初めのうちは「この人と話してほんとに何か得るものがあるのだろうか」というような顔をしている学生も時々います。ともかく、話をじっくりと聞かせてもらいます。一緒に考えたり、時には具体的な提案をしたりもします。そうやって30分から1時間。笑顔で「よくわかりました」「ありがとうございます」「何かあったらまたお願ひします」と言ってもらえるように、

真剣に（時には土地の話、趣味の話をするなどリラックスもしますが）一人ひとりと向き合います。その後は、それぞれの就職活動の進展に応じて、面接練習をはじめキャリアカウンセラーの方との連携も取り入れながら、自信を持って動けるように継続的にサポートしていきます。

## それぞれ、みんな違います

文系・理系。学部生・院生。留学生（卒業の見通しがついたということで遅れて就職活動を開始するケースがあります）。卒業時年齢の比較的高い人。男子学生・女子学生。就職か進学か、民間かそれとも公務員・教員かと迷っている人。公務員希望から民間企業への就職活動に切り替える人。3年生・4年生、時には2年生・1年生。外国人留学生。障害をもつ人。卒業してすぐに離職した人。フリーターをやっている人。出身地もめざす勤務地も様々です。他大学の人がくる場合もあります。ネクタイの結び方などを手ほどきすることもあります。

何社受けてもだめだったと途方にくれてくる学生がいる一方、何社も内定もらってどこに決めればいいのかわからなくなったりする学生もいます。この企業は大丈夫だろうか、というような質問もあります（この種の質問に対しては、各企業の経営状態を示す資料を提供することもできます）。ただし、経営状態がよいということと働きやすさとは必ずしも一致しませんので、働く環境についての見方を

話したりもします。なお、女性の働きやすい会社は、男性にとっても働きやすい会社であることが多いようです。

ともあれ、学生の皆さんにはどんなことでもいいですから、知りたいこと、わからないこと、困っていること、迷っていること、話にきて欲しいと思っています。教職員の皆さんには、周りに気になる学生さんがいたら、共通教育棟売店斜め前にある就職支援室を訪ねるよう一声掛けてくださいようお願いしたいと思います。

学内連絡先  
山口大学就職支援室  
TEL：083-933-5167/5145  
FAX：083-933-5198  
E-mail：ga111@yamaguchi-u.ac.jp(鴨崎)  
hirao@yamaguchi-u.ac.jp(平尾)

## ■ 企業等の方から

# 採用の仕事から感じること



渡辺 恭一  
株式会社高木製作所  
取締役総務部長

## 学生さんからの 質問に答えて

就職活動の学生さんと接していると、いろんな悩みを伺う機会があります。共通の事柄があるのではと思い、数点列挙させていただきます。

### 1、どういう会社に就職したらよ いかがわからない

人生の方向性を決められ、あるいは好きなことを念頭において就職先を決めて見える方もありますが、大部分の方はそうではなく、わからないのが当たり前と考えたらいかがでしょうか。人生はわからないことだらけです。わからない中で、考える切り口を自分で選択し、その中から選んだらいかがでしょうか。

#### 切り口の例

地域、業種、規模、  
公か民か、会社の雰囲気、  
労働条件、仕事の内容等々

### 2、就職先の将来性がわからない

これもわからなくて当たり前。現在隆盛を極めているところがいつまで隆盛を続けるか、人間万事塞翁が馬という諺があります、災い転じて福となったり、好事魔多しであったり、人生悲喜こもごもです。あまり深刻に将来を考えないで下さい。

### 3、したい仕事がない、わからない。

これも当たり前。したい仕事があり、それに従事できればそれは人生の僥倖。就「職」といいますが多くの場合就「社」です。仕事を与えられ、異動でそれが時々変わり、その時その時の業務を懸命に遂行しながら社会人生活を送る、これが多くの方の実態ではないでしょうか。

### 4、光の当たる仕事をしたい。

長い社会人生活の大部分を光の当たる部分で過ごされる方は稀で、大部分の方は当たる時期当たらぬ時期両面あります。むしろ当たらない時期のほうが長い方が多いのではないでしょうか。当たらぬ時期に、腐らず努力するといつか当たるようになります（そう信じて業務に精を出し事が肝要かと思います）。

## 学生時代の友人は大切に！

学生時代の友人はいいものです。仕事上の知人・友人との違いには歴然としたものがあります。仕事が絡む人との関係はどことなくギクシャクしますが、学校を媒体にした友人はそれなく、30年後の再会でもすんなりと昔の関係に戻れます。学生時代の友人を卒業後も大事にしてください。

## 山口大学の皆様、 こんにちは

私は、株式会社高木製作所の渡辺と申します。この度は、山口大学の広報誌に掲載の栄誉をいただき誠に有難うございます。

私は、採用の仕事に20数年従事してきました。その中で感じたことを少し述べさせていただきます。

## ■ 企業等の方から

# プロフェッショナルを目指そう

**早坂 浩治**

日本シーカ株式会社

人事・総務グループマネージャー

山口大学のみなさん、はじめて。日本シーカ株式会社の早坂と申します。みなさんの就職活動にあたり、企業の採用担当として私が考えていることをお話をしたいと思います。

## 将来のあなたは どんな方ですか？

これからみなさんは社会に出ようとしている、そのために、ほとんどの方は企業の就職試験を受けるとしているわけですが、その際にどんなことを考えていますか？その会社の業種は何か、規模は、勤務地は、給料は、残業は、などなど。でも、もっと大事なことは、みなさん自身が「将来どうなりたいか」、ということだと思います。研究職として社会に貢献したい、生産管理のプロフェッショナルになりたい、営業職として多くの人と接する仕事がしたい、あるいは、早く偉くなつて自分の裁量でビジネスを動かして行きたい、世界を股にかけた仕事をしたい、他にもたくさんあると思います。もちろん安定した仕事で、家庭や地域活動を重視した生き方をしたいというのもOKです。

## 目標設定と行動

私たちが採用にあたって重視しているのは「目標をもっているか」、そして「それを達成するために何をしているか」、ということです。

プロスポーツ選手は勝つために欠かさず練習をしています。みなさんも高校時代は大学合格を目指して猛勉強をしましたよね。同じように、例えばグローバルビジネスを目指していれば英語は勉強していく当然ですよね。就職試験の時だけ「英語はこれから勉強します」と言ってもプロになれるとは誰もいません。

幸いにして、みなさんは就職試験までもう少し時間があります。将来の目標を立て、今まで歩んできた人生を棚卸しし、目標に向かうためのシナリオを描き、それを今すぐ実行する。そうすればきっと良い選択が得られるのではないかと思います。大学で学んでいることをおさらいすることもとても役に立つと思います。

私自身は、縁あって国内の伝統的な企業から当社に2007年4月に入社しました。当社は外資系ですが、年齢・性別・学歴・国籍関係なしの実力主義です。マネージャーが最若手なんていう部署もあります。プロフェッショナルかどうかが基準です。

就職は単なる手段に過ぎません。その先にある、みなさん自身の目標に向かうための舞台です。プロフェッショナルを目指し、努力することで、自分の仕事に誇りが持てるのだと思います。

## ■ 企業等の方から

## これからの大学職員 -「できる職員」から「行動する職員」へ-

**米山 哲朗**

山口大学総務部人事課  
課長補佐

### 国立大学を取り巻く環境の変化

平成16年4月、国立大学は歴史的変革期を迎えました。国立大学はこれまで国の行政機関として政府で決定された法律等に基づき、大学を運営し、予算等を適切に執行してきましたが、国立大学に法人格が与えられ、国の行政機関から独立して自らが運営の責任と権限を持って、自主性・自立性を重視した個性豊かな大学の創造を目指すことになりました。

### 山口大学の課題と職員の役割

山口大学では、新たな大学づくりに踏み出すにあたり、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、中期目標に基づき中期計画を策定し、人間力とバイタリティーあふれる人材育成を目指して、教職員一丸となって様々な課題に取り組んでいます。

一方、社会状況の変化、とりわ

け18歳人口の減少に伴う受験生の確保と高い資質を持った学生の確保、政府の財政状況の低迷による運営費交付金の減額、それに伴うコスト削減（人件費の削減、組織の効率化等）、外部資金の確保等の課題にも対応していかなければなりません。

このような状況において、大学に新たな「経営（マネジメント）」の原理を導入し、これらの諸課題に適切に対処していく必要があります。そのためには職員の資質・能力の向上が極めて重要です。言い換えると、これらの大学運営や経営は、専門的知識を持った専門家によらなければ難しく、その専門家に職員を育て上げ、その上で教員と協働して大学運営等の任に当たさせていく時代だと考えています。

### 山口大学が求める職員像

新たに採用される職員には、まず、「学生が好き、大学が好き」という思いがあつてほしいと思います。その上で、与えられた仕事を無難に処理できるだけでなく、自らの考えを相手に理解してもらえる折衝力や説得力等のプレゼンテーション能力に優れた人であつてもらいたいと思っております。いくらいいアイデアや問題解決能力があっても、それらを相手が心地よく受け入れるだけの説得力がないと職務の成果が十分発揮されたとはいえないからです。

また、広い視野を持ち、状況の変化に柔軟に対応して創意工夫を発揮する行動力や、向上心を持ち自己啓発・自己研鑽に励み、改革・改善を積極的に取り組むことも必要でしょう。

### 最後に一言

私は、永年大学において採用などの人事管理の仕事に携わってきました。そこで感じたことですが、就職するに当たって一番大事なことは「自分を見つめ直す」ことだと思います。余り考えずにただ大企業や公務員が将来的にも安定しているということだけで、就職先として選んだりするのではなく、自分が将来どんな仕事をするのが理想なのか、自分の好きなことや得意なことは何かということを具体的にイメージしてみてください。その上で、就職先に自分を合わせるのでなく、自分の将来的ビジョンの中で、自分が活躍できるところはどこか、自分がやりたいことは何かという視点で選ぶことが大切ではないでしょうか。

本学には、皆さんの活躍できる場がたくさんあります。生涯の職として、高等教育機関である「大学」の職員を就職に当たっての選択肢の一つとして考えてみてください。

#### 学内連絡先

TEL : 083-933-5016

E-mail : sh02@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 山大発ベンチャー

# 仕事は夢を実現するためのステップ

**安藤 竜馬**

エコマス株式会社

代表取締役

(平成14年3月山口大学大学院  
技術経営研究科修了)

## 起業と就職の違いって何？

皆さんにとって就職ってどんなことだと思われますか？自分のやりたいことをするため？海外旅行に行く資金を作るため？安定した生活をするため？いろいろ目的があると思います。それを実現するために多くの人は既存の企業への就職を選ばれると思います。しかし、それが本当に最良の方法ですか、ということをちょっと立ち止まって考えてみてください。私は、仕事とは何らかの目標を達成するための手段だと考えています。小さい頃から「自分で会社を経営したかった」、「自分の手でビジネスを作ったかった」と思っていました。のために最良の方法として起業を選びました。就職では実現できないと考えたからです。それは起業して6年経ちますが正しかったと信じています。

## お金を知らない社長

しかし、実際に起業してみると困った問題がたくさんありました。私は山口大学大学院理工学研究科の設計工学専攻で博士後期課程まで研究をしていました。そのため、社会経験もなければ経営に必要なお金の知識など何もありませんでした。幸いなことに私は経営者やアドバイザーの方からのサポートがありなんとか乗り越えてきました

た。しかし、それでも経営に対する知識・経験は明らかに不足していることを実感し、山口大学に設立された技術経営研究科(MOT)に社会人学生として入学しました。ここでは、技術のこととそれらをビジネスにつなげるためのことを学ぶことができ、さらに多くの学生は社会人で自分とは違う世界で働いている人たちです。研究しか分からなかった私にとっては非常に刺激的であり有意義なものでした。これから社会に出られる皆さんも、学生のときに大学で学んだこととビジネスとを結びつけるための知識や経験を積んでもらえたると思います。

## 夢を実現するために

起業というと敷居が高いイメージをもたれる方も多いかもしれません、実はそれほど難しいことではありません。起業するだけであれば。難しいのは作った会社を持続的に成長させていくことで、こちらのほうが何倍も大変なことです。しかし、今は様々な公的な支援やMOTなどの教育システムがあり、起業からビジネスを成功させるまでのステップができます。もし、皆さんの目標が就職ではないのなら、起業という選択肢も考えてみてはいかがでしょうか？

## ■ 山大発ベンチャー

# 山口大学から全国へ、NPO法人学生耕作隊

**近藤 紀子**

NPO法人学生耕作隊

理事長

(平成16年3月山口大学大学院  
農学研究科修了)

学生耕作隊は農業支援型NPO法人の草分けとして、全国から自治体や企業が視察に多く来られますが、2007年はこれまでの成果が全国レベルで評価されました。男女共同参画社会づくり功労者表彰で女性のチャレンジ賞（内閣府特命担当大臣表彰）受賞の席では、小泉元首相から激励を頂き、日経ウーマンでは、ウーマン・オブ・ザ・イヤーのリーダー賞を受賞し、自民党の機関紙『自由民主』新年号の企画では、安倍前首相との対談で3ページの特集が組まれ、若者起業の成功事例として紹介され、政府選定事業「立ち上がる農山漁村」では、全国の選定事業者の代表として首相官邸で事例発表をするなど、素晴らしい機会に恵みました。

首相官邸には百姓の正装着である麦藁帽をかぶって参加し、「やりたいことはとことんやる」「ミッションを持つ」この軸がぶれない姿勢に安倍首相（当時）をはじめ関係大臣から拍手喝采を頂きました。このように問題解決を事業化することが地域を活性化する、という社会起業の精神を教わったのは山大のベンチャービジネス論との出会いでした。「問題が多いところほどチャンスがある」という片岡勝先生の志に押され、いまや、ベンチャー論卒業生のネットワークはアメーバー型起業家集団

へと成長し、1億数千万円の年商と60数人を雇用しており、山大生の就職の受け皿にもなっています。

学生耕作隊・島根では、島根大学と障害者の仕事作りの為のブルーベリー栽培で、松江工業高等専門学校とは地産地消エネルギー構想でのバイオマス研究で産官学協定が結ばれています。道州制が議論される中で、中国四国農政局で行われた中四国食農交流ねっとわーくの総会では、議長として中四国の食農ネットの具体化を議論し、新聞社の広域連携シンポジウムには耕作隊・島根のメンバーとパネリストとして参加するなど、多様化したニーズと多様な解決手法の創造構築のために産官学民で協力しあう広域連携を目指しています。また、立ち上がる農山漁村ネットワークでは北海道、九州にまで学生がキャラバンを行い、全国への輪が広がっています。

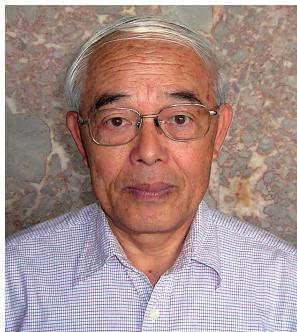
山大卒業生と一緒に、私も真っ直ぐ頑張って、山口からの成功事例を世界に発信したいと思います。



東北地方をキャラバン

## ■ 保護者から

## 同窓会による就職支援

**庫本 正**

鴻理会（理学部同窓会）会長

人の人生は就職で決まると云つても過言ではありません。学生たちは子供の頃からそれぞれの理想の人生を模索し、それにかなった大学を選び、専門の勉学を続けてきました。そして、その最後の閥門が就職と云うことになります。

私たちは学生の人生を決める重大事に、何らかの貢献をすべきではないかと思います。先生や先輩たちは真剣に学生の相談に応じ、適切なアドバイスを与え、学生の人生の門出を祝ってあげたいものです。

### 先生や先輩の助言、 励ましは宝物

私は山口大学を卒業し、幸い田舎の小さな博物館に就職、誇りと責任を持って創造的な世界を築くことに夢中でした。今考えてみると、就職にも先生や先輩の貴重な助言がありました。また、研究・教育・自然保護など様々な仕事で困難に直面した時、やっぱり先生や先輩の有益な助言が役に立ちました。長い人生では、人はたくさんの方々からの助言や励ましをいただき、荒波を乗り越えるものです。こんな時、人々は素晴らしい先生や先輩たちに巡り会えたことの幸せを実感するものです。

厳しい就職戦線の現状を考えるとき、先輩として何か役に立たなければならないと思います。多様

な職業のノウハウや豊富な人生体験をじっくり語り、後輩たちの直面している困難に適切な助言をするのは先輩の務めでしょう。山口大学を通して先輩と後輩が結ばれ、互いに助け合いながら人生を切り開くことは素晴らしいことです。

### 理学部OBによる就職座談会

最近、大学の大型化が進み、理学部も多人数になりました。その結果、先輩と後輩の絆が疎遠になっているように思えます。鴻理会は同窓生の絆を強化するために、様々な事業を展開しています。今最も力を入れているのは後輩たちの教育と就職の支援事業です。鴻理会は、一昨年から理学部の就職委員会と協力し、理学部OBによる就職座談会を開いています。私たちは参加した学生から先輩の話は有意義だったという意見をいただいており、大変喜んでいます。この理学部OBによる就職座談会は将来にわたって長く続ける事ができれば、間違いなく大きな力になるものと確信しています。

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 人文学部

## 人文学部の就職支援について



高木 智見

人文学部就職支援委員長  
人文学部 人文社会学科 教授

人文学部では、就職相談室を常設し、就職指導を専門に担当する職員が、種々の情報を提供し、懇切な指導に当たっています。相談室には、人文の学生を対象にした求人票が掲示され、関連図書の借り出しもできます。情報検索パソコンの利用も可能です。

学部の就職支援委員会は、委員長と副委員長のほか、各コース選出の支援委員で構成されており、学年別オリエンテーションや、キャリアガイダンス、就職活動セミナー、就職活動体験報告会、コミュニケーション能力養成講座などを実施しています。

このほか、全学の学生支援センター就職支援部の先生や職員の方々には、あらゆる面で支援していただいている。さらに山口県若者就職支援センターの専門カウンセラーの方や山口大学生協の職員の方にも、必要に応じて相談や指導をお願いしています。

ここからは人文学部の教員として声を大にして言いたいと思います。そもそも就職活動に当たって、最初に行うべき最も重要なことは、言うまでもなく「自己分析」です。

自己分析とは、要するに、決して長くはないこの人生において、一体自分は何を成し遂げたいのか。この大きな問題に一定の答えを出すこと。少なくとも現時点での方向性を決めることです。そのためには、当然、自分自身との対話が不可欠となります。これは、就職

活動を推進するエネルギーを生み出すという意味においても極めて大切な作業です。

ところで、人文学部における学問の本質とは、人間とは何か、社会とは何か、という最も根源的な問いを追求することです。しかも、とりわけ重要なことに、そうした問いの追求に当たり、それを具体化し、どのように解決するのかということに関しては、一切が学ぶ者自身の力で考え実行することにかかっています。そのために、常に自分自身に問いかけ、自分自身を鍛えるという作業、つまり自らとの絶えざる対話が求められます。それはほとんど、自己分析と重なる作業です。この意味において、人文学部の学生は、日々、自己分析を行っているとも言えます。人文学部は、決して就職活動に不利な学部ではなく、むしろ真の意味での就職支援を恒常的に行っている学部なのです。

## 学内連絡先

TEL : 083-933-5217

E-mail : satakagi@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 人文学部



長村 真吾

大学院人文科学研究所  
地域文化専攻 2年

## 職業選択のきっかけ

高校の時から「先生になりたい」と思っていました。高校時代の先生の授業がとても面白くて、「いつかこの先生みたいになりたい」といった単純な動機ですが、この気持ちは7年たった今でも、結局変わりませんでした。

ただ、そのころは学校の先生しか考えていないかったのですが、学習塾でアルバイトをしてから、塾講師も魅力的な仕事だと感じるようになりました。色々と失敗したり、苦しい経験をしたりしましたが、とても充実しているし、何より子どもたちの成長を間近で見ることが、こんなにもうれしいことなのかなと思いました。だから、私は学習塾関係を中心に就職活動を進めていこうと決意しました。

## 実際の活動

実際に企業にエントリーしたのは3月からでした。最初の頃は右も左も分からず、かなりとまどい

## 私の就職活動

ました。「自己PRや志望動機はどうやって書けばいいのだろう」とか「面接は何を聞かれるのかな」など、悩みは多かったです。

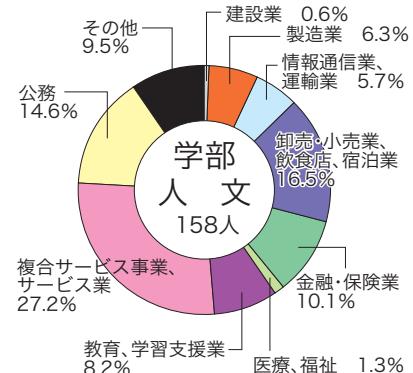
初めての面接の時は足が震えていたのを今ではっきりと覚えています。一応、聞かれることを予想して、答えを考えてはいるのですが、緊張のあまり自分の言いたいことがほとんど言えませんでした。実際に人前で自分の意見を述べてみれば分かると思いますが、自分の考えを人に伝えるのはかなり難しいことだと痛感しました。しかし、回数を重ねていくと、次第に緊張もほぐれていきました。面接の時も、自分の言いたいことが少しずつですが言えるようになりました。

## 最後に

自分の進路については、かなり迷いました。やりたいことはありましたけど、この選択でいいのだろうかと、常に悩んでいたのが現実です。実際、塾講師になると決意するまでには、数ヶ月かかりました。親・先生・友達にいろいろと相談して、時々喧嘩にもなりました。でも、アドバイスを聞いたり、自分の考えを話したりしたこと、自分が何をしたいのかを再認識することができました。相談に乗っていただいた方にはとても感謝しています。

これから就職活動を始める方は、迷う時があると思います。そ

んな時は、身近な人に相談してみてはどうでしょうか。人に話することで、自分のやりたいことを見つめ直し、一歩ずつでも前に進んでいけば、きっとうまくいくと思います。



## 【人文学部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ 日本郵政公社
- ◆ 福岡県教員
- ◆ (株) JTB中国四国
- ◆ 広島県教員
- ◆ (株) 西京銀行
- ◆ (株) コスモス薬品
- ◆ 島根県職員
- ◆ 広島県市町村職員
- ◆ TLCグループ
- ◆ (株) 向学社
- ◆ 島根県教員
- ◆ (株) ハローネット
- ◆ 防衛省
- ◆ イオン九州(株)
- ◆ 近畿日本ツーリスト(株)
- ◆ ハウステンボス(株)

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 教育学部



福田 修

教育学部就職支援部長

教育学部 学校教育講座 教授

## 教育学部の就職支援

教育学部では、就職支援業務を企画・運営する教員6人と事務職員2人を中心に、学部21教室に担当教員各1人ずつ（前記6人を含む）を配置して、学生の就職活動の支援にあたっています。その主要な支援業務は以下のとおりです。

## 教員採用に関するもの

- ①教員採用ビデオ講座  
(9月・3月、教職教養25コマ、小学校全科26コマ)
- ②教員採用直前セミナー  
(「論作文のポイント」「同和人権問題」「教育関係答申」「音楽実技」「体育実技」「面接のポイント」「模擬授業のポイント」「模擬個人面接・集団討論」「模擬授業・集団討論）
- ③学内模擬試験  
(毎週水曜日「教職教養」「論作文」、毎週木曜日「小学校全科」)・公開模擬試験(3月・5月、4回)
- ④教員採用対策講演会  
(11月、学生支援センターとの共催)

## 主に企業就職に関するもの

- ①就職ガイダンス・講演会  
(5月・11月)
- ②職業適性検査・結果説明会  
(6月・7月)
- ③就職相談コーナー  
(毎月2回程度)
- ④企業就職模擬個人面接・グループディスカッション  
(12月・2月)

## 公務員就職に関するもの

- ①公務員採用試験体験報告会  
(11月、人文学部との共催)

以上の支援業務を学生に知らせるために、A3の大きさのポスター「就職ガイド」を月に2回程度作成し、学部中央の掲示板や各教室の掲示板等に貼りだしています。また、各企業や私立学校などから教育学部に来る求人情報については、毎週金曜日に3年次生と4年次生のメールアドレスに配信し、就職情報室に求人票をファイルしています。

教育学部の就職状況は、学生たちの主体的な取組みの結果としてここ数年上向き傾向にあります。2007年3月の卒業生についてみれば、就職を希望した者の94.1%が就職できています。その内訳は、教員が43.1%、公務員・団体職員が9.9%、企業など教員・公務員以外が41.1%となっています。

教育学部就職支援部では、就職支援に関する公開可能なすべての情報を、学生をはじめ学外の人々・企業等に提供するためにWebページ (<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~syusyoku/>) を開設しています。ぜひ開いてご覧になってください。

## 学内連絡先

TEL : 083-933-5451

E-mail : fukudao@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 教育学部

## 教員採用試験



鈴木 幸

大学院教育学研究科  
学校教育専修 2年

私が、教員採用試験合格を目指して取り組んだことは、大きく3つです。皆さんのお役に立てればと思い、述べたいと思います。

## 勉強スタイル

私は大学院に進学したため、講義や研究が忙しく勉強時間が十分にとれませんでした。まとまった時間がとれたのは、M2（修士2年）になってからです。かなりの短期集中型でした。そのため、模試の結果も悪いことがよくありました。あきらめずに努力をしました。

また、たくさん問題を解くため、全国の過去問を解きました。その際、白地図に正答率で分けた色を塗り、楽しく勉強する工夫をしました。

## 情報収集

インターネット、新聞、本など情報は誰にでも平等です。また、大学は教育の専門家の集まりです。

いろいろな人と話すことで、自分の考えを深めることができました。

その際、ボランティアなどに参加をすると子どもたちと関われますし、現場の先生のお話を聞くこともできます。同級生や先輩で現場に出ていた人の話を聞いたり、大学院に来られる現場の先生の話を聞いたり、いろいろな方法で情報を得るようにしました。そのため、普段から教育について考えることができ、二次試験対策も付け焼き刃ではなく、自分の考えを述べることができました。

## 大学を利用する！

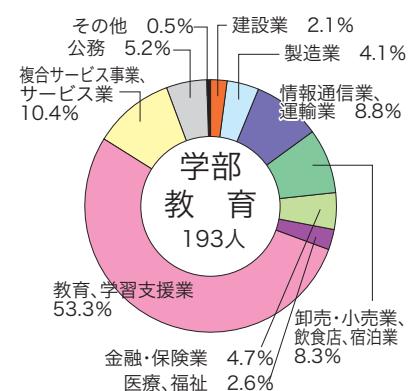
私は、指導の先生のご配慮で授業を参観したり、先生方の研修に参加したりする機会に恵まれました。これは、私の研究室ならではだと思っています。しかし、教育学部には似たようなシステムがあります。有効な事業が行われているので、自分から飛び込んで利用すると良いでしょう。参加をすると、先輩や後輩のつながりが増えたり、先生方と知り合えたりと、体験もでき、自分の考えも広げることができます。

また、いろいろな授業を見ていると、模擬授業をする際もイメージがわきます。大学で行われている、様々なボランティアや行事に参加してみるとよいと思います。

勉強をしていると、やめたくな

ることもありました。そのときは、小学校に行って楽しかったことを思い出し、「教員になりたい」と思い直すことで、やる気を持続させてきました。

それぞれのペースで、夢に向かって頑張ってください。



## 【教育学部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ 山口県教員
- ◆ 広島県教員
- ◆ 神奈川県教員
- ◆ 日本郵政公社
- ◆ 福岡県教員
- ◆ 大阪府教員
- ◆ 島根県教員
- ◆ (株)山口銀行
- ◆ (国立大学法人)山口大学
- ◆ 福岡県市町村職員
- ◆ 福岡県職員
- ◆ (独立行政法人)国立青少年教育振興機構
- ◆ 鹿児島県教員
- ◆ 東京都教員
- ◆ 長崎県教員

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 経済学部

## 経済学部の就職支援の取組み



石田 成則

経済学部就職支援委員会  
経済学部 経営学科 教授

## はじめに

現在の就職活動は、3年生の後期に始まり、また業種によっては4年生になる前に「内定」ができる業種もあるのが現状です。そのため、3年生後期以降を「就職活動期」、3年生前期までを「就職活動準備期」として対策に取り組んでいます。就職活動のための準備に取りかかる時期が遅れると、「出遅れ」「準備不足」となり、就職活動では苦戦を強いられる危険性が高くなります。

## 4年一貫の

## 就職支援プログラム

そこで、このような就職環境に対応するため、経済学部では「4年一貫の就職支援プログラム」を実施しています。「4年一貫の就職支援プログラム」は「キャリア教育」とは異なり、学生が「満足できる就職」「納得のいく就職」を実現することを支援するものです。具体的には、1年生および2年生を対象とした「進路支援プログラム」、就職活動を直前に控えた3年生を対象とした「就職活動準備支援プログラム」、就職活動中の3年生および4年生を対象とした「就職活動支援プログラム」に大別されます。

## 具体的取組みについて

「進路支援プログラム」は広く人生や働くことについて知り、自分自身の人生について考える機会

を提供するもので、外部の講師を招いて講演会や研修会を開催しています。一方、「就職活動準備支援プログラム」は企業情報やノウハウの提供というテクニカルな支援を行うもので、月2回のペースで「就職実践講座」として「自己分析の仕方」「仕事研究の仕方」「業界・企業研究の仕方」「日経新聞の読み方」「企業選びのための財務諸表の見方」「エントリーシートの書き方」などをテーマに、ハウツーを中心とした実践的な研修会を開催しています。最後に、「就職活動支援プログラム」では、求人情報の提供や模擬面接、未内定者就職相談・指導という実践的な支援を行っています。

経済学部では、こうした活動を通じて、きめ細かい対策をとることを心掛けています。

## 学内連絡先

TEL : 083-933-5519

E-mail : [ishida@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp](mailto:ishida@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp)

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 経済学部

## 就職活動を振り返って



中西 崇文

経済学部 経営学科 4年

## 私が体験した就職活動

3年生の前期から就職活動ガイダンスなどがありました。私が就職活動を本格的に意識し始めたのは3年生の後期からでした。自分が社会に出るということにあまり実感がなく、前期は今まで通りの生活を続けていました。しかし、夏休みに実家に戻り、都心部の大学へ通っている友人と話をして、後悔しました。都心部の学生は本当に早くから就職活動をしていたのです。周りの友との情報交換も大切ですが、都心部や他県の友との情報交換が大切だと痛感しました。

私はまず、業種分析と自己分析を始めました。そして、面接でよく質問される、自己PR・志望動機・学生生活で成し遂げたことを考えました。志望動機はゼミの教授に何度も相談し、多大なるご迷惑をかけてしまいましたが、教授との面談を繰り返す度に自信を持つて志望動機を言えるようになり、面接では困ることはありませんでした。

した。他人に客観的に評価してもらうということがいかに重要かを実感しました。

面接では、緊張せず、自信を持って元気よく受け答えすることを意識しました。想定外の質問などをされた時は、自分を落ち着かせるために質問を反復して聞き返し、焦らずに落ち着いて答えました。その企業と縁がなかったとしても、後悔だけはしないよう、面接で自分を出し切ることを心がけました。

## 職業選択のきっかけ

私は金融論のゼミであったために日頃から金融に関わる機会があり、漠然とですが金融関係の仕事に就きたいと考えていました。ただ、金融と言っても多々あり、業種研究をして、自分はどのような仕事がしたいのかを真剣に考えました。

## 後輩へのアドバイス

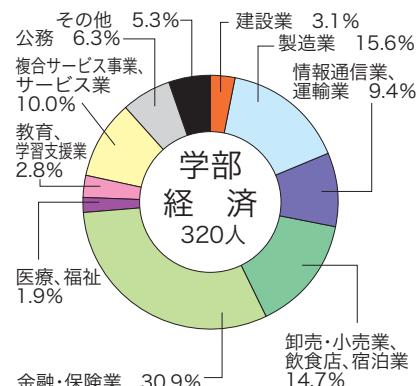
- 早い時期から新聞を読み、自分の将来や、やりたい仕事について真剣に考え、いち早く就職活動を始めること。
- 周りの友との情報交換ももちろん大切ですが、都心部の大学の友人と情報交換することは自分への戒めにもなると思いますので、頻繁に都心部の友人と連絡すること。
- 山口県では会社説明会や企業面接はあまり実施されませんので、近辺でも福岡県や広島県に行か

ざるを得ません。ですので、交通費などの就職活動資金を貯めておくこと。

- 面接では緊張せず、自信を持って臨み、後悔のないようにすること。

以上の4点をアドバイスしたいと思います。

景気回復や団塊世代の大量退職などにより、売り手市場と言われていますが、企業が厳選採用することに変わりはありません。油断することなく、後悔のない人生選択、就職活動ができるることを願っています。



## 【経済学部】

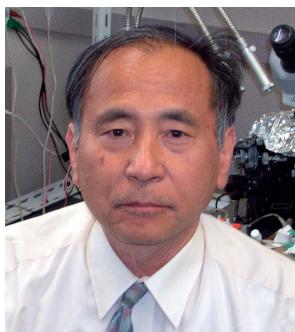
## 2007年3月卒業生の主な就職先

- (株)山口銀行
- (株)広島銀行
- 大和証券(株)
- 日本郵政公社
- (株)西京銀行
- (株)三菱東京UFJ銀行
- 日興コーディアル証券(株)
- 西日本電信電話(株)
- 中国労働金庫
- 三菱UFJ証券(株)
- (株)もみじ銀行

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 理 学 部

## 理学部における就職状況と支援



青島 均

理学部キャリアデザイン委員

大学院医学系研究科

応用分子生命科学系専攻（理学部 生物・化学科）

教授

就職は結婚と並んで、その人の人生を決める大きな選択です。転職や離婚が増加した昨今、昔に比べて共に人生におけるウエイトが軽くなった点は似ています。しかし、再チャレンジが可能になったとはいえ、よく考え充分に準備した上で選択するに越したことはありません。

バブル後の就職氷河期に比べて、就職状況はずっと改善したと思います。氷河期のころは教員からすると優秀な学生と思われる学生も、社会の評価は異なるためか卒業時に就職先が決まらないことがあり、お互いに辛い思いをしたものでした。最近は、誰もが知っている有名企業に就職する学生もあり、選ばなければ卒業までにはどこかに就職できる状況です。しかし、バブルのころは、企業は人数を確保するという立場でしたが、現在は学生の質を重視し、一定の能力が

なければ採用しないというように変わっています。納得しなければ結婚しないということで独身の男女が増加しているのに相通ずる点だと思います。

就職が決まりにくいのは、地域や職種を絞る場合です。少子化で地元での就職を希望する学生が多くなっていますが、昔理学部の卒業生が選択した教職の採用数が減少し、中央と地方の格差が生じて、求人票にも地方の企業の採用減少がみられます。地元に戻りたい場合、本社は東京や大阪の会社であっても支店が地元にある会社を選択するのも一つの対応です。理学部の学生は研究開発職を希望する人が多いですが、大企業の研究職はTOEICでいえば600点レベルの競争になります。それだけの実力をつけるか中小の企業を探すかという対応が必要です。

私の学生のころに比べて、大学の学生への就職支援は、はるかに充実していると思います。従って、理学部としては大学の学生支援センター就職支援部の行事を学生に周知し、就職活動に利用するよう勧める立場をとっています。理学部独自の取り組みとして、R-CAP受検に対して半額を援助し、自分の適性を客観的に自覚した上での就職活動を勧めています。また、OBを大学に招いて直接懇談する機会を設けています。そこで、社会を肌で感じ自己紹介をどのようにしたらよいのか学んでもらっ

ています。

たとえ就職できても、能力が伴わなくては転職を余儀なくされます。理学部としては学生に広い意味での能力を高めてもらって、社会人として通用するよう努めています。現在問題になっているのは、就職活動が早期化、長期化していることです。十分な能力をつける前に就職活動を余儀なくされ、実験や研究の時間が取れなくなってしまっています。企業も損失に気付き、協定を作つて対応しようとしているようですが、早急に改善しないと日本の社会の大きな損失となってしまいます。

## 学内連絡先

TEL : 083-933-5762

E-mail : aoshima@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 理 学 部

## 就職活動を振り返って



横田 拓也

理学部

化学・地球科学科 4年

## 就活スタート

地元で就職したい、理系の知識が活かせる技術系の仕事がしたい。私はこの2つの目標を掲げて就職活動を始めました。まず10月ごろからリクナビをチェックし、興味を持った企業にエントリーしました。説明会や面接など、本格的に動き始めたのは翌年の2月ごろになつてからでしたが、それまでの間はSPI対策や自己分析、エントリーシートを書く練習に当てました。SPIは誰でも解ける問題がほとんどですが、対策をしていなければ解けない問題もあります。私はSPI対策を怠っていたため、何度か痛い目を見ました。アピールの場である面接も受けずに落とされてしまうのはかなり寂しいものです。これから就活を始めるみなさんには、SPIをあなどらないように計画的に対策をしてください。

## 就活ピーク

2月ごろから会社説明会や合同

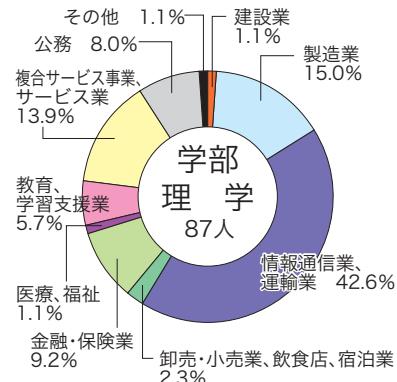
企業説明会に積極的に参加し始めました。説明会では、様々な企業の方の話を聞くことができとても参考になりました。実際にその業界で働いていらっしゃる方の話は何にも勝る情報源です。どんどん質問をぶつけてみて下さい。

試験や面接のピーク時にはエントリーシートの締め切りに追われ、選考試験を何日も連続して受けました。体力が必要でしたが、お金も結構掛かりました。体調管理も就活資金の用意も自己責任です。早めに準備しておきましょう。

面接では志望動機や将来のビジョンだけでなく「自分を動物に例えると何?」など、答えるのに戸惑うようなことも聞かれたりしましたが、落ち着いて素直な気持ちで答えるように努めました。相手の思惑をあれこれ考えるよりも、ありのままの自分を評価してもらうことが大事だと思います。一番肝心なのは、どうしてこの会社を選んだのか、そしてどれだけこの会社で働きたいかという思いを相手に伝えることです。

## アドバイス

最初はいろいろと失敗もしましたが、最終的には第一志望の会社から内定を頂くことができました。失敗は必ず次につながると思うので、みなさんも妥協せず計画的に就職活動を進めていくください。



## 【理 学 部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ 日本郵政公社
- ◆ (株)山口銀行
- ◆ 西日本電信電話(株)
- ◆ 兵庫県教員
- ◆ 宇部興産(株)
- ◆ (株)コスモス薬品
- ◆ (株)日立製作所
- ◆ 西日本旅客鉄道(株)
- ◆ 中外製薬(株)
- ◆ (株)ツムラ
- ◆ 大日本印刷(株)

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 医学部

## 医学部保健学科における就職活動とその支援



市原 清志

大学院医学系研究科 保健学系専攻  
(医学部 保健学科) 教授

医学部は医学科と保健学科で構成されています。医学科は卒業後、ほぼ全員卒後の臨床研修に従事するため、就職活動を要求されることではなく、実際上、本大学医学科では、就職支援のための活動は特にやっていません。一方、保健学科は、看護学と検査技術科学の2専攻よりなり、看護学の学生は、国家試験合格後ほぼ全員看護師・保健師・助産師のいずれかの職種に進みます。検査技術科学の学生は、国家試験合格後臨床検査技師となり、主として病院の検査室勤務をめざし、一部は病院や診療所の検査を請け負う臨床検査センターに就職します。また、まだ少数ながら、大学院修了者を中心に、バイオサイエンスにおける各種の分析技術を生かして、医薬品や医療機器の開発を行う研究所に従事したり、その販売に関与する業種に就いたりするケースがあります。

さて、学生による就職活動の実態ですが、看護学専攻の場合、完全な売り手市場であり、昨年の求人依頼件数は1000件程度あり、十分な求人票からほぼ希望通りの条件で就職を実現できています。特に昨年より「7：1看護」と称して、患者7人当たり1人以上の看護師を確保できれば、病院は診療報酬が増えるという形の健康保険制度が導入され、看護師の需要が急激に増加しました。特に国立大学附属病院を中心とする特定機能病院（最先端の医療を提供する病

院）はこぞって看護師の確保に動き、看護師の大幅な需要増加が生じました。なお昨年度の進路は、看護師68、保健師8、助産師6、進学1、就職せずが1でした。

一方、検査技術科学専攻の場合、つい数年前までは就職難がつづき、早期より十分な就職活動を行わない、希望者の多い大病院への就職は困難でした。しかし、一昨年頃より少しづつ求人件数が増えつつあります。これは、いわゆる団塊の世代が定年を迎えているからと考えられていて、実際上、今年は昨年よりも2～3割程度求人件数が増えています。

いずれにしろ、就職先の状況や病院や検査センターでの検査実態を実地研修すべく、卒後就職を目指す学生には3年生の夏休みから、就職希望先の施設へ1～5日間の見学研修を受けるよう積極的に勧めています。また、担任が他学部同様にさまざまな就職支援活動（施設訪問、3年次よりの個別面談、模擬面接等）を行っています。昨年度は、病院や検査センターへ30人、企業の研究所等への就職が4人、大学院進学が8人で、全員ほぼ希望どおりの進路に就いています。

## 学内連絡先

TEL : 0836-22-2884

FAX : 0836-35-5213

E-mail : ichihara@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 医学部

## 看護学生の就職活動

奥野 貴子

医学部

保健学科看護学専攻 4年

## 就職活動を始める前に

医学部保健学科看護学専攻の学生は、看護師・保健師・助産師等、どの看護職に就きたいかを定めなければなりません。私の場合は3年次後期に地域看護学等の講義を受けたこと、所属するエイズカフェサークルでの活動を通じて、看護師の他に保健師も選択肢に挙げました。

その後防府市の成人式で、新成人を対象に健康教育を行わせていただき、それを契機に保健師になりたいという気持ちがより高まりました。

しかし、いずれかの職種を選択しなければならないため、実習での経験や今まで感じたことを振り返って、何故自分は看護学を専攻したのかをじっくり考えてみました。そして多くの人に自分の考えを聞いてもらううちに、「医療の視点から人を見たい」と思い至りました。

## 就職活動

看護学生の就職活動期間は、他学部と大きく異なります。看護師希望ならば、4年次の夏季休業中は就職活動真っ盛りです。

私は看護師になると決め、5月頃から病院探しを始めました。選

ぶ基準は人それぞれです。就職するにあたって、自分が何を重要視するか熟考する必要があります。それに優先順位をつけ、どの病院にするかを選びました。

私は病院の候補を2つに絞り、病院見学・インターンシップに参加しました。病院見学とインターンシップは、看護師としての業務内容や、就職後の教育制度など、その病院の様々な情報を入手できるよい機会です。

## 就職試験

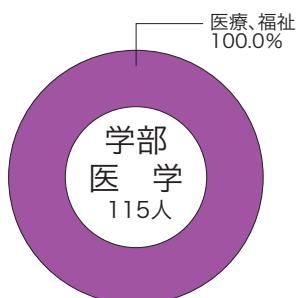
小論文・面接はほとんどの病院で実施されているようです。インターンシップに参加したことは、面接時、「きちんと病院を知って受験している」という評価につながりました。

## 後輩へ

在学中に多くを経験し、様々なことを感じてほしいと思います。あなたが一歩足を踏み出すだけで世界が広がり、今までとは違った視点から物事を見る事ができるようになります。経験したすべてのことが、あなたの糧になります。

思い、悩み、挫折することがあっても、それらは必ずあなたの自信につながります。「できない」ではなく、「やってみる」

就職活動の第一歩です。



※医学科は除く

## 【医学部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ 山口大学医学部附属病院
- ◆ (独立行政法人) 国立病院機構
- ◆ 広島大学病院
- ◆ 福岡県市町村職員
- ◆ 熊本大学医学部附属病院
- ◆ 東京大学医学部附属病院
- ◆ 宇部興産(株)
- ◆ (株)新日本科学
- ◆ (学)福岡大学
- ◆ (社会福祉法人)恩賜財団済生会
- ◆ 大阪大学医学部附属病院
- ◆ 岡山大学医学部・歯学部附属病院
- ◆ 日本赤十字社 (熊本赤十字病院)

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 工 学 部

## 工学部における就職支援



齊藤 俊

キャリアデザイン委員会工学部委員  
大学院医学系研究科  
応用医工学系専攻（工学部 機械工学科）教授

## 求人件数・求人数

マスコミ等で報道されているように、工学部の就職状況は本年度も非常に好調でした。機械工学科を例に取ると、一昨年500件弱であった求人件数が600件を超え、各社が求人件数を増やしているため、全求人件数は学生数をはるかに超えるものとなっています。また、これまで関東地区や中部地区だけだった求人活動範囲を、中国・四国・九州地区まで拡げる企業も現れ、大学訪問する企業数も機械工学科では200件を超える結果となりました。中には、何度も足を運ばれる企業があり、人材確保にかなりの勢力をつぎ込んでいることが分かります。海外進出や国内工場の増設に伴う増員や団塊の世代が抜けた後の補充に対して、各企業は大きな危機感を持っており、大学からの人材供給に対する期待は、ますます大きくなっています。

## リクルート活動の開始時期

そのため、企業の求人活動開始時期も早まっています。本年度の来学企業数の月別状況を図1に示します。今年は、2月、3月に多くの企業が来学されましたが、来年度はさらに早まることが予想されます。平成21年4月採用学生に対する求人票送付や企業の来学がすでに始まっています。

## 就職情報と就職支援

このような状況に対して、工学部では、全学的に行われている学生支援センターの就職支援の他に、各学科就職担当教員および工学部学務学生支援担当が就職支援を行っています。工学部宛に届いた会社案内・求人票は、工学部就職情報資料室に整理されており、Webページ (<http://office.jim-e.yamaguchi-u.ac.jp/recruit/default.asp>) にて閲覧することができます。また、各学科に届けられる就職情報は、

学科資料室や学科Webページなどで情報提供しています。機械工学科を例に挙げると、毎年の求人情報資料はすべて、学科資料室に保管されており、学生はいつでも閲覧することができます。また、Webページ ([http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mrecruit/gakunai/recruit\\_index.html](http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~mrecruit/gakunai/recruit_index.html))において、来学企業と書類送付企業のリストや求人件数、学校推薦の有無などの求人状況を簡単に調べることができます。さらに、こういった情報提供だけでなく、就職指導、就職相談、エントリーシートの記入指導・チェック、面接練習など個人を対象とした支援も行っています。学科毎の支援に関する詳細については、各学科就職担当や学生支援担当にお問い合わせいただければと思います。

## 学内連絡先

TEL : 0836-85-9142

E-mail : [tsaito@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tsaito@yamaguchi-u.ac.jp)

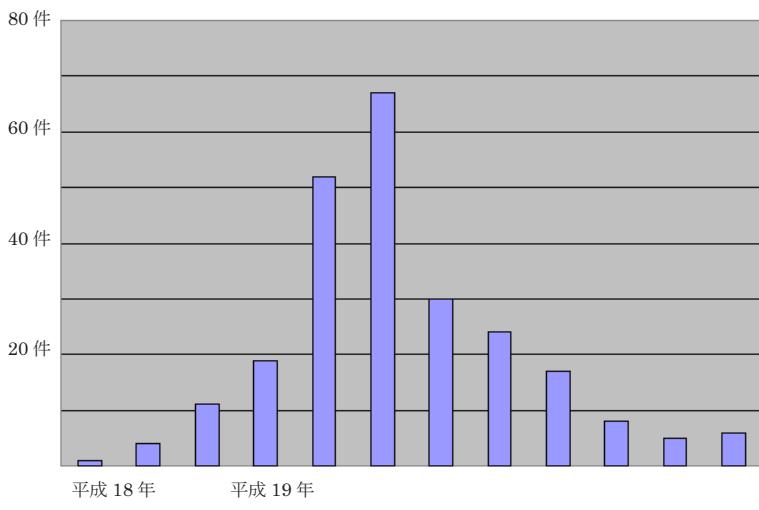


図1 平成19年度 来学企業数の月別状況（例：機械工学科）

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 工 学 部

## 私 の 就 職 活 動



三木 陽介

工学部

知能情報工学科 4年

まず、初めに言っておきます。私自身の就職活動は決してうまくいったというわけではありません。ですので、私の就職活動を振り返ってよかつた点と悪かった点を挙げてみるので、もしよかつたら参考にしてみてください。

## よかつた点

学内で行われる就職支援活動に積極的に参加していました。具体的には、どの職種が自分に向いているかを調べる「R-CAP」という適性診断・自己分析を行いました。この適性診断を行うことで、自分がどの職種に向いているかが分かりますが、それをすべて真に受けるわけではなく、こういう方向や職業もあるという参考として受け止め、広い視野を持って就職活動を行えるようになりました。

合同就職セミナーにも積極的に参加していました。このセミナー

にはリクルーターの方が来られて、企業内容をじっくりと聞くことができました。また、ブース形式の少人数で行うものだったので、自分の知りたい情報を質問して企業を隅々まで研究することができ、とても有意義でした。

## 悪かった点

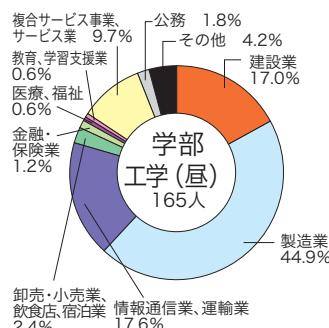
まず、面接の練習と場数が少なかったことが挙げられます。面接というのはやはり緊張をするもので、2・3回面接練習したから大丈夫というものではありません。就職担当の先生をつかまえて何度も練習をお願いすることが大切です。

また、きちんと自己分析ができていなかつたことです。自分のことだからそんなのすぐできると思っていたが、意外と自分が分からぬものです。自分はどんなことに興味があるのか、どんなことをしてみたいのかなどを早い段階で考えてみてください。

## アドバイス

就職活動は確かに自分のことですが、自分ひとりだけで活動していくのはとてもしんどいものです。周りで一緒に就職活動をしている友達と情報交換をし、時には励まし合ったりすることが大切です。また、先輩に話を聞くこともとても重要です。先輩たちは自分たちの1年前に就職活動を経験してい

るので、就職活動のコツやノウハウというものを知っています。できるだけ先輩と話してこれらを教えてもらってきてください。そして、無事就職活動を乗り切り、自分の納得のいく結果を残せるよう頑張ってください。



## 【工 学 部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ セントラル硝子(株)
- ◆ 九州電子(株)
- ◆ 西日本旅客鉄道(株)
- ◆ (株)シーテック
- ◆ 豊鋼材工業(株)
- ◆ 総合警備保障(株)
- ◆ ソニーセミコンダクタ九州(株)
- ◆ 宇部マテリアルズ(株)
- ◆ 長州産業(株)
- ◆ YKKAP(株)
- ◆ ダイハツ工業(株)
- ◆ (株)富士通中国システムズ
- ◆ 三菱電機特機システム(株)
- ◆ 大日本印刷(株)
- ◆ 三井造船(株)
- ◆ マツダ(株)
- ◆ 三菱重工業(株)
- ◆ (株)東芝
- ◆ 日本電気(株)

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 農 学 部

## 農学部で行っている就職支援の取り組み

深田 三夫

農学部就職支援担当教員

農学部 生物資源環境科学科 教授

就職支援の一環として、去る11月2日に「農学部×Liveトーク～踏み出そう第一歩」と題して第2回目の農学部就職セミナーを開催しました。対象は農学部3学科の3年生（生物資源環境科学科、生物機能科学科）、5年生（獣医学科）、M1生で約90人が参加しました。参加者の多くは就職試験や大学院入試を1年後に控え、進路は最大の関心事でありまた心配の種となっています。しかしこの時期、はっきりと進路先を決めている学生はまだ数少なく、公務員・民間・大学院進学など決めかねている学生も多いと思います。

夏休み明けに3学科の就職支援担当教員の話し合いで、就職活動を終えたばかりの学生やこの4月に社会人となったフレッシュマンから話を聞くのもよいのではと今回の企画となりました。セミナーの内容と進行については、セミナー担当者が平尾准教授（就職支援室教員）と相談したうえで決めてよいと担当の一人にお願いしました。この秋就職活動を終えたばかりの内定者3人から、それぞれの就職活動の体験・苦労話などを1人15分程度話してもらい、その後、公務員県職、大学院進学者2人が加

わり、会場から質問を受けるという形のセミナーを行いました。内定者3人の進路先は、1) 専攻とは異なる民間企業に内定、2) MR<sup>(注)</sup>職希望から最終的には食品会社に内定、3) 農学部から金融機関に内定で、内定までの流れ、スケジュールの管理方法とエントリーシートの攻略法、会社説明会で注意する点、研究職・技術職の選択、失敗談、女性ならではの結婚観や就職観など、3人それぞれの長く厳しい就職活動から得たものや思いが熱く語られました。会場からの質問が多く予定の時間を大きくオーバーして閉会しました。

内定者からは、

- ・このような様々な内定者によるセミナーは前期に行い、後期は公務員、他大学大学院進学、山口大学大学院内定者など細かく分けたセミナーを行った方が質問もし易いのではないか。
  - ・学校で行われている合同企業説明会を知らない人が多い。もつと広報を工夫した方がいいのは？学部・院の掲示板に就職情報も載せたらどうか！
- などが指摘されましたが、セミナーの時期や就職関連情報の連絡法については今後検討していく必要があると思います。

なおこの文はセミナー講演者の一人である小川美紀さんのレポートをもとに作成したものです。紙面をかりて御礼申し上げます。

注) MR : Medical Representative.  
医薬情報担当者の略、医療関係者を訪問し、医薬品の適正使用情報を提供し、副作用情報を収集する。



就職セミナーの風景

学内連絡先  
TEL/Fax : 083-933-5830  
E-mail : mfukada@yamaguchi-u.ac.jp

## ■ 各学部の就職支援・就活体験談

## 農 学 部

## 私の公務員試験対策

## 豊福 ユカリ

農学部

生物資源環境科学科 4年

## はじめに

2007年10月、私は希望官庁より内定通知を頂き、無事に就職活動を終えることができました。これから、公務員を目指している方のために何かお役に立てればと思い、私が続けてきた公務員試験対策について述べていきたいと思います。

## 公務員試験対策

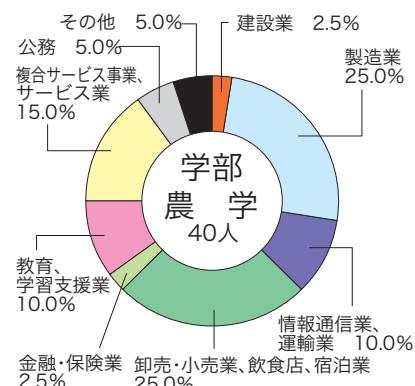
ご周知の通り、試験は一次試験と二次試験があります。一次試験は筆記試験で、出題科目は多く、範囲は広く、膨大な知識を頭に詰め込まなければなりません。なので、できるだけ早いうちに勉強に取り掛かかることをお勧めします。私は学生協で行われている学内の公務員講座を受講しており、3年の6月頃から勉強を開始しました。しかし、部活動をしていたこともあり、部活を引退する3年の12月まで勉強といえば講座に出るくらいで、本格的に勉強し始めたのは年明け以降でした。その結果、付け焼き刃的な知識のまま本番に臨むことになってしまい、ひどく後悔しました。勉強は、自分でノートを作ったり、教科書に線を引いたり、紙に殴り書きしたりなど、様々な進め方がありますが、早いうちに自分に一番合った勉強法を見つけ出すことが大切だと思います。その際、同様に自分に一番合った勉強場所や勉強の時間量・時間帯なども考えて下さい。私の場合、勉強は図書館や研究室で短時間で集中して、朝型人間なので朝早く始めて夜中はやらない形をとっていました。しかし、私のやり方が良い悪いとは一概に言えないで、色々試行錯誤して、自分なりのやり方を見つけてみてください。

二次試験は面接などの人物試験です。私は公務員講座内で面接の練習をさせてもらいましたが、講座を受講している人もしていない人も、面接の練習はできるだけ沢山しておくのがいいと思います。練習経験を積むことによって、面接慣れでき、練習をほとんどしていない人と差をつけることができるからです。

## おわりに

前述のように、公務員試験の内容は盛り沢山なので、対策期間は大変長丁場になります。長期間、モチベーションを高く保ち続けることは難しく、時にはひどく不安になったり、諦めかけたりすることもあると思います。そのような時は同じ公務員を目指している人と話したり、好きなことをやったりして気分転換を図り、自分の精神状態をうまく調整していくください。また、勉強法や時間の量は一人ひとり様々です。「あの人はあんなに勉強しているのに自分

は全然していない」と焦ることはありません。今まで色々述べましたが、自分の気持ちと向き合いながら、マイペースでコツコツと気長に試験対策に取り組んでいくことが合格への一番の近道だと思います。公務員をこれから目指される方は、頑張ってください。



※獣医学科は除く

## 【農 学 部】

## 2007年3月卒業生の主な就職先

- ◆ アース環境サービス(株)
- ◆ (株)丸久
- ◆ 日研総業(株)
- ◆ (株)新日本科学
- ◆ (株)コスモス薬品
- ◆ セキスイハイム九州(株)
- ◆ オハヨー乳業(株)
- ◆ 東京靴(株)
- ◆ (株)ニチレイフーズ
- ◆ 日本マクドナルド(株)
- ◆ 三笠産業(株)
- ◆ 山崎製パン(株)
- ◆ (株)ユアーズ

## ■ 学内インターンシップ

# インターンシップを体験して

## 金子 優理恵

経済学部

経営学科 3年

## 貴重な5日間

私は9月の終わりに山口大学総務部総務課で5日間インターンシップをさせていただきました。短い期間でしたが、広報・調査係、秘書室、総務係の仕事を体験することができました。私が山口大学でのインターンシップを希望したのは、もともと大学職員という仕事を意識したわけではないのですが、こんなに近くに職業体験のチャンスがあるのに参加しないのは損だと思い応募しました。しかし、実際に働いてみるとかなり自分の適性に合った仕事で、進路について考える良いきっかけになりました。

## インターンシップで 学んだこと

総務課の仕事というものは、郵便物処理や広報物の発行など分かりやすそうなものが多いですが、実際の仕事は複雑なルールがあり、作業をやり終えた後は達成感を感じました。

広報・調査係では、自分たちが日ごろ何気なく見ているWebサイトと広報誌の作業をさせていただき大学の情報量の多さに圧倒されました。秘書室では、来客対応やお茶の出し方などを実際に体験できたことで社会に出た後の不安が少し減らしました。電話応対は自分ではもう少しうまくできるかと思っていたましたが、緊張すると言葉が出てこなかったのでもっと努力が必要だと感じました。総務係

での仕事は秋季卒業式に参加するという貴重な体験ができてよかったです。

当たり前の大学生活を過ごすために実はこんなにお世話になっている。そのことに気付けただけでも有意義だったと思います。

## 最後に

まだ社会人として働いたことのない私たちは実際の職場の空気や作法が分かりません。ですからインターンシップとして体験しておくことはとても重要だと思います。

今まで覚えてきた知識が役に立つかどうかは実践してみるしかありません。インターンシップに応募するかどうかを迷っている人はぜひ応募してみてください。



文書処理の作業をする筆者（奥）

# 工学部入学試験の大阪会場設置について

小河原 加久治

教授 大学院理工学研究科 システム設計工学系専攻（工学部 機械工学科）



## はじめに

2008年度の学部一般選抜の前期日程から、工学部（宇部市）に加え関西地区にも試験会場を設けることになりました。大学所在地以外で入学試験を行う場合、それらの会場を“地方会場”と呼ぶことが多いようです。本学の場合には2008年度“地方会場”として交通の便の良い大阪市内のホテルを選びました。これは宇部市内の宿泊施設だけでは宿泊可能者数が十分ではなく、受験生のニーズに応えられないという事情があります。交通至便の大阪市内に試験会場を設ければ、宿泊の心配が軽減されるばかりではなく、会場へのアクセスも多様であり、広く全国からの受験生にメリットがあると考え、地方会場を設けることになりました。

## 地方会場設置の背景

私立大学では地方会場を設けることは珍しくありませんが、国立大学においては少数の例外を除いては一般的ではありませんでした。ところが近年、大都市以外に本拠地を置く工学系の学部を中心に、地方会場を設ける国立大学が増えました。これは少子化により18歳人口が減少していることに加え、理系離れなどにより理工系、特に工学系の受験生が減少していることが一因だと言われています。つまり、国立大学も広域から入学者を集めるために、受

験生の声に耳を傾け、選ばれる大学を目指して入試システム改善の必要性が増しているのです。

地方会場入試の成功例としては、開学当初から東京に試験会場を設け、全国から多くの学生を集めている秋田大学資源工学部が挙げられます。山口大学工学部の場合、中国5県からの受験生が高い比率を占めるため、東京ではなく大阪を選択しました。中国地方の北部および東部から交通の便が良い大阪会場は、多くの受験生に歓迎されると期待しています。

## 2008年度大阪会場

工学部の一般選抜前期日程試験日は2008年2月25日で募集定員は323人です。受験生の住所に関係なく大阪会場で受験できますが、詳細は11月中旬に発表される学生募集要項で確認してください。会場は、大阪市西区新町のウェルシティ大阪（大阪厚生年金会館）です。

山口大学学務部入試課  
TEL : 083-933-5153  
E-mail : ga122@yamaguchi-u.ac.jp

学内連絡先  
TEL : 0836-85-9126  
E-mail : ogawara@yamaguchi-u.ac.jp

## 学生による指導案と教材開発及び検証を通した知財教育について

木村 友久  
教授 大学院技術経営研究科



### はじめに

大学院技術経営研究科、教育学部、工学部等が提案した「教職を目指す学生への実践型知財教育の展開－学生による指導案と教材の開発及び検証を通した知財教育の展開－」が、文部科学省の平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（テーマ3：知的財産・コンテンツ関連教育の推進）に採択されました。本事業の全体像は、知財教育を普及させるために、教職課程受講希望学生自身が初等中等教育向けの知的財産教育指導案と教育コンテンツ（実物教材、メディア教材）を制作し、知的財産教育に係る人材育成を行うものです。ここでは、山口大学の知財教育研究と実践の推移を簡単に説明するとともに、今回採択された平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムの紹介を行います。

### 山口大学における知財研究と教育実践

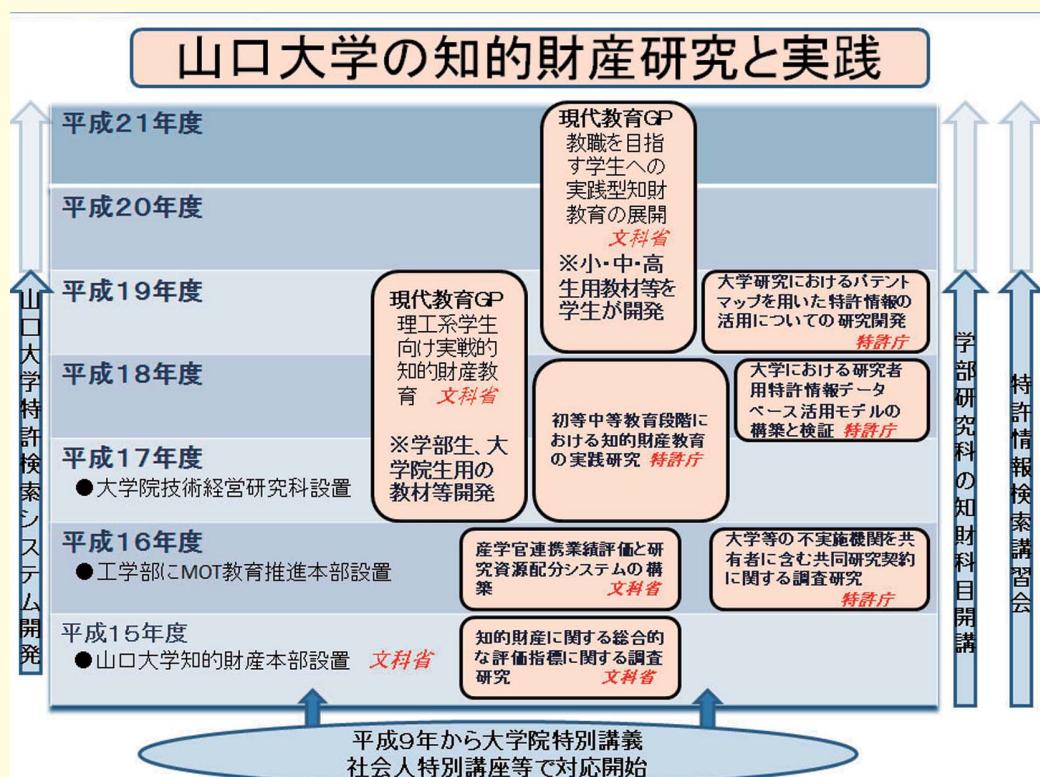
山口大学の知財関連科目は、平成9年度に理工学研究科、地域共同研究開発センター等が開設した大学院特別講義・社会人特別講座を始祖として順次開設科目を拡大してきました。その間、外部予算も獲得しながら着実に教材開発や実証講義を進めてきました。図1は、直近の知的財産研究と教育実践をまとめたものです。

当大学では、学部・大学院における知財人材育成

だけでなく、その前段階である初等中等教育段階から一貫した知財人材育成の研究と実践を進めてきました。平成17年度から動いている現代的教育ニーズ取組支援プログラム「理工系学生向けの実戦的知的財産教育（取組担当者 堤弘守教授）」は、学部から大学院までの知的財産教育において、同時に工学専門教育の創造性・研究開発力向上を促進する教育方法の研究がテーマとなっています。ここでは、工学専門分野教員が、自己の所属するコースの学生に知的財産教育を行うことで、知的財産教育担当教員の不足を解消する試みが続けられています。その他、特許情報検索講習会や、山口大学独自の特許情報検索システム開発、特許庁の平成18年度大学における知的財産権研究プロジェクト「大学における研究者用特許情報データベース活用モデルの構築と検証」等、各種の研究と教育実践が進行しています。

### 今回採択された平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムについて

今回採択されたプログラムは、①教職課程受講者が教員免許取得希望教科の学習指導要領と教科書を調査し、知的財産教育と適合性がある箇所を抽出する。②受講者自身が、上記箇所に該当する指導案と実物教材とメディア教材を含む教材を企画・制作する。③指導案および教材制作時における、著作権保護と著作物活用の指導を行う。④模擬授業や実証授業を通じて、学生と教員による教育効果の検証を行う内容となっています。対象学生自身の知的財産実務対応能力を向上させる直接的な効果とともに、社会的には知財教育の裾野拡大、学生と小・中・高校生の創造性育成、イノベーション人材やクリエーターの輩出につながるもので、このプログラムは、平成17～18年度の特許庁知的財産教育研究プロジェクト「初等中等教育段階における知的財産教育の実践



(図1) 山口大学の知的財産研究と教育実践

研究<sup>1)2)</sup>」の延長線上にある実践研究でもあります。この先行研究では教員が初等中等教育用知財教材を開発していますが、教職課程学生がこの部分を担当することで、結果として学生の知財実践教育能力形成と教材の蓄積効果をねらうものです。

期間は平成21年度までの予定ですが、部局間連携型の取組みを通して知的財産を含めた大学教育改善の波及効果も期待しておりますので、本プログラムに対する積極的なご指導・ご協力を賜ることができたら幸いです。

#### 【注釈】

1) 報告書

<http://t-kimura03.cc.yamaguchi-u.ac.jp/exterorg/hou005.html>

2) 教材ビデオ等配信

<http://t-kimura03.cc.yamaguchi-u.ac.jp/exterorg/itiran.pdf>

学内連絡先  
TEL : 0836-85-9909 (木村研究室)  
0836-85-9047 (現代GP事務局)  
E-mail : t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp  
gp2007@yamaguchi-u.ac.jp

# 「解析主導設計(ALD)を活用した先進ものづくりを 実現する体系的地域人材高度化教育」 －社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムの採択に当たって－

**上西 研**

研究科長・教授 大学院技術経営研究科



## はじめに

大学院技術経営研究科が中心となって申請した「解析主導設計（ALD）を活用した先進ものづくりを実現する体系的地域人材高度化教育」が文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択されました。本事業は大学における教育研究資源を活用し、社会人の学び直しニーズに対応した教育プログラムを開発する優れた取組を支援するもので、理工農系の国立大学法人からは15大学が選定されました。我々が提案したプログラムでは、デジタルエンジニアリング（DE）を解析主導設計（ALD；Analysis-Led Design）まで高度化するための学び直しと、それを最大限に活用するマネジメント能力を習得するための先進ものづくり教育を行います。これらの人材育成を通して、自律的な試作・提案型企業を創出することを目指しています。

## 背景と目的

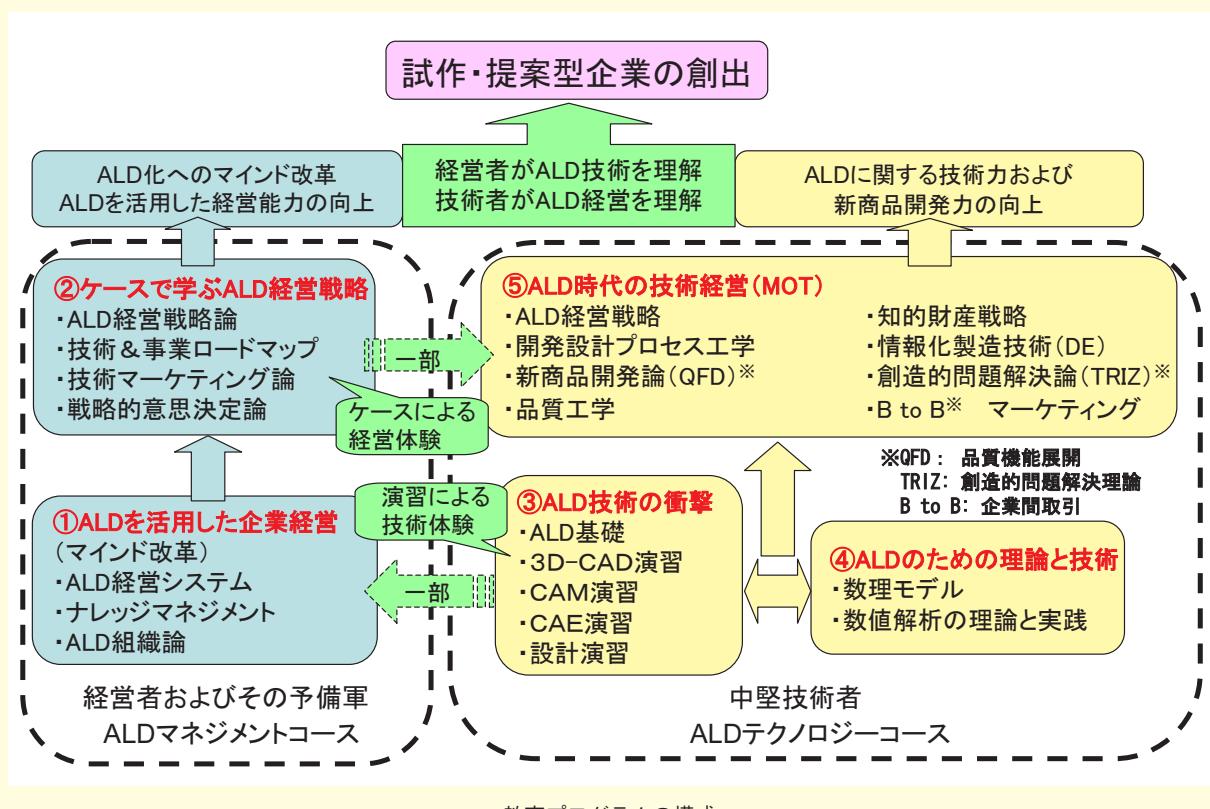
現在、日本の製造業において3D-CAD、CAM、CAE等のデジタルエンジニアリング（DE）技術は大きな転換期を迎えています。すなわち、IT技術の普及およびソフトウェアの低価格化等により、DEは従来の大企業を中心としたものから中小企業が重

要な役割を担っているサプライチェーン全体で活用する時代になってきています。しかしながら、中小企業におけるDE導入は単なる設計・製造の電子化のレベルに留まっており、このままでは下請け依存型から脱却することはできません。地域の中小企業を試作・提案型企業へ転換させるためには、DEを解析主導設計（ALD）（開発期間短縮・省コスト化を実現するのみならず、解析技術を用いてコンピュータ上で企画・試作・品質保証試験ができる設計）のレベルに進化させ、大企業に拮抗しうる高付加価値製品を生み出すことのできる人材を育成することが不可欠です。

本事業は平成19年度から平成21年度までの3年間の事業であり、中小企業の経営者と技術者を主な対象として、技術としてのALDの学び直しと、それを最大限に活用するマネジメント能力を習得するための体系的高度ものづくり教育を行うものです。山口大学大学院技術経営研究科と理工学研究科が連携し、山口大学の山口・広島・北九州教室において各地域の産業特性に応じた教育プログラムを実施します。さらに、各地域を有機的に結合したALD人材のネットワークを構築し、中国・北部九州におけるイノベーション創出に繋げていくことを目的としています。

## 実施内容

本事業では、中小製造業経営者を対象とするALDマネジメントコース（計42時間）と中堅技術者を対象とするALDテクノロジーコース（計51時間）を実施します。平成19年度のALDマネジメントコースは内部評価・外部評価を実施しながら基盤教材開発を行います。ALDテクノロジーコースにおいて



は内部評価・外部評価を実施した基盤教材開発および第1回目の講義を山口・広島・北九州の各教室で行います。

ALDマネジメントコースは、中小製造業経営者のマインド改革を目的とした科目「①ALDを活用した企業経営」（担当：技術経営研究科および理工学研究科）とALDを活用した経営能力の向上を目的とした科目「②ケースで学ぶALD経営戦略」（担当：技術経営研究科）の2科目です。ALDテクノロジーコースは中小製造業の中堅技術者を対象にALD実務に必要な最新技術の習得を目的とした科目「③ALD技術の衝撃」（担当：技術経営研究科および理工学研究科）、ALDの背後にある解析技術の理解を目的とした科目「④ALDのための解析技術」（担当：技術経営研究科および理工学研究科）、ALDを活用した商品企画・設計・製造のマネジメント能力の習得を目的とした科目「⑤ALD時代の技術経営（MOT）」（担当：技術経営研究科）の3科目で構成されています。

なお、科目「①ALDを活用した企業経営」の一部では経営者が演習によってALD技術を体験し、科目「⑤ALD時代の技術経営（MOT）」の一部では

技術者がケースメソッドによって経営を体験します。このような一部の授業内容の相互乗り入れによって、経営者がALD技術を理解し、技術者がALD経営を理解することができる大きな特徴です。

## おわりに

本プロジェクトの経過は定期的に山口大学大学院技術経営研究科のWebページ上 (<http://ald.mot.yamaguchi-u.ac.jp/>) で公開します。皆様のご意見等を頂ければ幸いです。

学内連絡先  
TEL : 0836-85-9060  
E-mail : kaminisi@yamaguchi-u.ac.jp

# 専門職大学院等教育推進プログラム

## 「ちゃぶ台型ネットによる理科教育支援計画」の取り組みについて

村上 清文

副学部長・教授 教育学部 理科教育講座



### はじめに

児童生徒の「理科嫌い」・「理科離れ」が問題になってから久しく、文部科学省をはじめとした多くの機関で理科教育に関する振興策が実施されてきていますが、未だ、この問題の解決の兆しは見えません。他方、児童生徒の理科離れの原因の一つには「教師の理科離れ」があるとの指摘もあります。加えて、現在の学校教員は、さまざまな校務で多忙のため、十分な教材研究を行った上で授業を実施することが困難だと云われています。

このような状況の改善のため、文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」の公募に対して、「ちゃぶ台型ネットによる理科教育支援計画」の取り組み申請を行いました。このたび9月21日付けで採択され、平成19年度から20年度にかけて実施することとなりました。本稿では、この取り組みの概要をご紹介いたします。

### 取り組み概要

本取り組みでは、山口大学教育学部と山口県教育委員会、山口市教育委員会等の機関との連携のもと、現職教員・大学教員・学生が参画する「ちゃぶ台型理科教育支援ネットワーク」を構築します。従来の

単発型・イベント型研修を脱し、日常的に支援を継続することによって、理科の授業に非力感や改善意欲を抱いている小学校教員や学生に対し、彼らの直面している具体的な事例・課題の個別的な解決を図ろうとするものです。図1・2に取り組みの概念図および実施組織を示します。この取り組みにより、以下のような効果を期待しております。

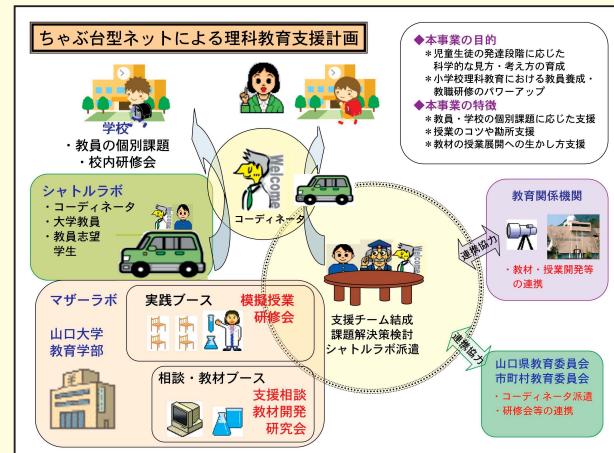


図1. 取り組み概念図

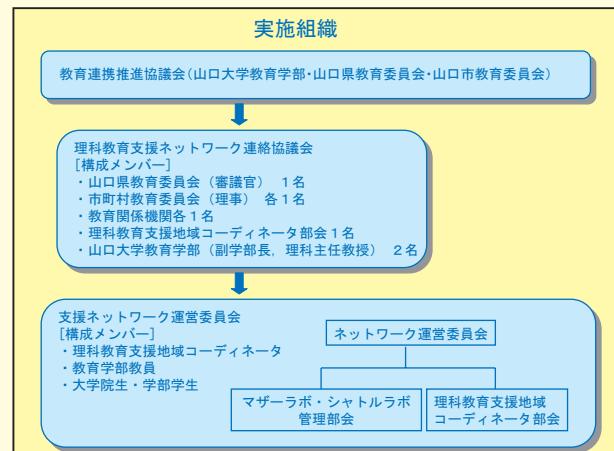


図2. 実施組織

- ①現職教員は「マザーラボ」『相談ブース』における支援相談、『教材ブース』における教材開発・指導法援助や教材提供、『実践ブース』における試行模擬授業の実施機会の提供や研修会による最新の授業方法等の情報提供を受けることができます。また、移動型理科教育支援装置である「シャトルラボ」の派遣により、在任校や地域において、個別相談や授業改善支援を受けることができます。
- ②本事業にコーディネータとして参画する「理科に強い」「教育実践に熟達した」教員は、地域における理科教育の指導者（「スクールリーダー」）として、教材開発力や後進の指導力などの一層の力量アップを図ることができます。
- ③支援活動に参加する教職志望学生は、理科授業実践上の現場の課題を知ることができるとともに、教材開発や授業の実践技術を修得することができるとなり、教員としてのより一層の資質の向上を図ることができます。
- ④最後に、大学教員にとっては、学校現場の理科教育上の実践的ニーズを把握し、教員養成カリキュラムの内容の改善を図ることができます。

このように、さまざまな立場の関係者が、「ちゃぶ台」を囲むように（時には本物のちゃぶ台を囲んで議論しながら（図3））、課題解決に向けて協働することにより、各々が恩恵を受けつつ、小学校における理科教育力の向上に繋げて行きたいと考えています。



図3. ちゃぶ台イメージ

## おわりに

現在、支援活動の実施に向けて、「マザーラボ」や「シャトルラボ」の設置等の準備を進めているところです。取り組み内容の詳細については、近々ホームページでお知らせする予定にしております。最後になりましたが、「マザーラボ」等の設置にあたり学長裁量経費の援助をいただきましたことを、学長はじめ関係各位にお礼申し上げます。

# 人文・社会科学のプロジェクト研究に新しい展開を！

～平成19年度「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」に採択されて～

**山本 真弓** 准教授 人文学部 人文社会学科  
**辰己佳寿子** 准教授 大学教育機構 エクステンションセンター  
**山本 薫子** 准教授 教育学部 社会科教育講座

## 学部や専門分野の壁を越えたい！

「ディシプリンがちがう。」

研究者が学問分野の垣根を越えることができないとき、あるいは、異なる専門領域の研究者と議論できないとき、さらに言えば、同じ分野の研究者だけが集まって共同研究のチームを組むとき、この一言はさまざまな意味を込めて使われてきました。けれども、わたしたちは、個人研究や同じディシプリン（学問の対象領域と方法論）の者が集まることが多い人文・社会科学分野で、本当の意味でのプロジェクト研究をやりたいと思ってきました。

つまり、学部を超えて、学問領域を超えて、徹底的に議論し、お互いのディシプリンを認め合いながら、文字どおり協力・協働・相互学習で、ひとつの研究成果をあげたい——そんな想いを込めて申請したプロジェクト「**「バングラデシュの社会経済的格差と労働移動に関する実証的研究～境界を越える人々～**」が、このたび10倍を超える競争率のなかで採択されました。



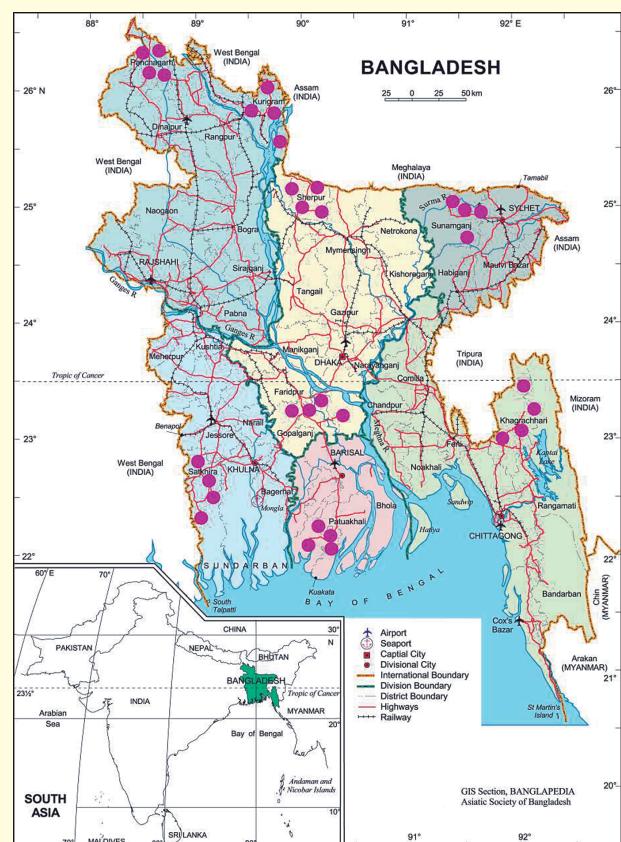
## 楽しかった申請書・面接資料作り

申請書を作成する段階で、わたしたちはまるで研究会を何度も重ねるかのような議論を、そのとき山口大学におられた松井範惇教授の研究室で行いました。それまでの研究成果や、バングラデシュとのかかわり方は、一人ひとり異なります。それらを突き合わ

せ、自分の分野との違いや共通点に驚いたり、納得したり、疑問をぶつけたりしながらの申請書作成の日々。書類審査（一次審査）通過の知らせを受け、二次審査にむけて、休日返上で東京での面接に備えた資料作りの時間。振り返ってみると、それはまさに至る所に立ちはだかっている壁を、やすやすと越えていく痛快な瞬間の連続だったように思います。

## 文部科学省委託事業として

昨年度から始まったこの研究推進事業は、個人ベースの科研費によるプロジェクトとは異なり、文部科



調査対象地域

学省が大学に対して行う委託研究です。ですから、このたび採択されたわたしたちの研究プロジェクトも、文部科学省による山口大学への委託事業として実施されることになります。

それは、この事業の目的が「我が国との関係で重要な地域について、現在の政治・経済・社会制度等とその背景となる思想・文化・歴史等との関係など、今後我が国が人的交流や国際貢献を進めるために必要な社会的・政策的ニーズに基づくプロジェクト研究を実施」することにあるからです。

バングラデシュは1971年に、独立戦争を経て生まれた新しい国です。日本は当時の国際社会において、バングラデシュを国家承認した2番目の国でした。バングラデシュをいち早く独立国として認めた日本に、バングラデシュの人たちはとても近しい感情をもっています。山口大学にもバングラデシュからの留学生は少なくありません。わたしたちのプロジェクトは、そんなバングラデシュの農村と都市、バングラデシュと日本、バングラデシュと世界を結ぶ人の移動と労働、それにまつわるさまざまな社会経済的事象を扱っていきます。

## メンバーの紹介

メンバーはわたしたちのほか、他機関から3人（松井範惇教授・大学評価学位授与機構／池本幸生

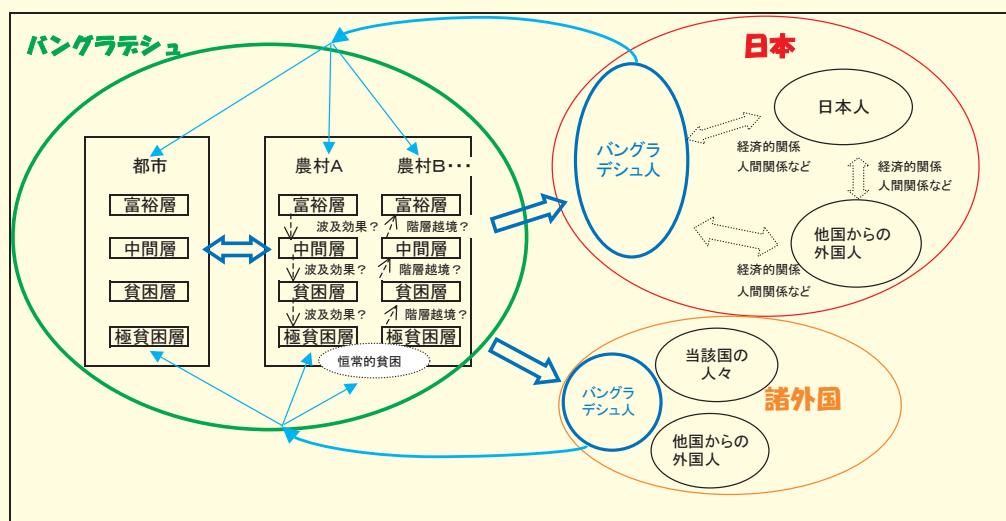


研究会の様子

教授・東京大学東洋文化研究所／坪井ひろみ准教授・秋田大学）が加わった合計6人です。

冒頭でも述べた松井教授は、本学大学院東アジア研究科で6年半の教育研究活動をされており、秋田大学の坪井准教授は、本学で博士号を取得されています。お二人とも山口大学に深い縁のある方々です。また、池本教授は、携帯電話の向こうから「もしもし」ではなく、「Hello」という声が飛び込んでくることもある国際派です。

あらゆる境界を軽々と飛び越える——そんな志向性をもった6人の研究プロジェクト・チームメンバーが、今後の人文・社会科学のプロジェクト研究に新しい展開をもたらすことができるよう力を合わせたいと思っています。



学内連絡先  
TEL : 083-933-5242  
E-mail : jasid06@yamaguchi-u.ac.jp

# 山口県学生環境セミナー2007

## －8大学から37人参加で拡がる環境活動ネットワーク－

村上 ひとみ

准教授 大学院理工学研究科 環境共生系専攻



### 環境セミナーの目的

9月18日～19日の2日間、山口県エコキャンパス取組促進協議会の主催により、37人の参加を得て山口県学生環境セミナー2007が開催されました。山口県内6大学から学生26人、教員7人、県外の北九州市立大学から学生1人、鳥取環境大学から学生1人に加えて山口県職員2人が参加しました。上記のうち、山口大学からは工学部を中心に学生10人、教員3人が参加しました。

募集要項に記載したセミナーの目的は、次のとおりです。

『地球の温暖化や資源の枯渇など環境問題が21世紀の最重要かつ緊急課題として注目される中、一般学生の環境意識と省資源行動はまだまだ危機感に乏しいのが実態です。しかし、キャンパスの内外で、大学生が自ら環境問題を学び、仲間の学生への意識啓発につとめ、足下から主体的に今できる対策を実行していくことは非常に重要です。

この山口県学生環境セミナーでは、生ゴミ堆肥化の見学により食物の循環について学びます。また、合宿を通じて学生による環境問題への取り組みを発表し、テーマ別ワークショップで意見交換し、大学を超えて交流・親睦を深めます。』

本稿では、セミナーの企画から実施に至る過程を振り返り、その成果と課題を述べたいと思います。

### 企画・準備にあたり

環境サークル「エコファイターズ」は2005年度に発足し、おもしろプロジェクトの支援を受けて、デポジット食器利用によるゴミ減量、エコバッグ作成など、学生の環境意識啓発に努めてきました。筆者はその活動を支援しており、2005年には大学生協連合会主催の環境セミナー（於・京都大学）に学生と共に参加し、全国から集まる大学1年生や2年生が、環境サークルや学生環境委員会で活発に学び、活動する様子に大いに励まされました。

しかし、本学内や県内大学をみると、環境問題に取り組み、行動する学生は少数に留まり、メンバーを募り、交流し助け合う機会が不足しています。そこで、山口県エコキャンパス取組促進協議会（会員は県内11大学、会長・臼井恵次宇部フロンティア大学教授）による学生環境セミナーの開催を提案した次第です。

同協議会が全体の枠組みを司り、山口県廃棄物・リサイクル課に見学先と交渉していただく一方、学生中心の実行委員会をつくり、そこでセミナーの中身を具体化し準備を進めました。実行委員会代表は井上佳美さん（山口県立大学3年、同大学エコアクション21学生委員長）が務め、委員には山口県立大学、宇部フロンティア大学、山口大学から加わりました。

参加者募集のポスターを7月上旬に各大学に配布し、セミナー案内のHPを作成して情報発信と申し込み受付を準備しました。しかし、申し込みはなかなか伸びず、環境サークルの関係者に留まる傾向も見られました。一般の学部生でも環境問題に関心があれば、見学・交流の機会は楽しく有意義だろうと奨めてみても、多くのイベントや掲示に埋もれて、飛び込みの学生は少ないことが分かりました。来年度のセミナーでは、楽しさをもっとアピールする一方、学生委員会等を通じて、各学部・学科の教員か

ら学生へ確実に情報が伝わるように広報することが大切です。

それでも幸い、37人の申し込みを得て、実行委員会は準備会合、ML（メーリングリスト）での頻繁な相談、参加者への連絡、台風への警戒、買い出しなど精一杯準備に頑張ることとなりました。

## 学生環境セミナーの初日、リサイクル見学

初日には新山口駅で集合し、バスに乗車して、見学に向かいました。食品リサイクル法関連で山口県が進めるFood & Green リサイクルの取り組みとして、山口市阿知須や宇部市地域で、残飯や調理くずを飼料に加工する(株)宇部衛生工業社、残飯など資源を提供する宇部72アジススパホテル、剪定枝やゴルフ場の刈芝に乾燥生ゴミを混ぜて堆肥化する(株)西日本グリーンリサイクル、エコ堆肥を利用する農家などを見学しました。一行は国立山口徳地青少年自然の家に移動し、見学を振り返り、残飯や生ゴミも大切な資源であり食べ物を無駄にしないこと、また燃やすより堆肥化による食物循環の大切さを実感しました。屋外に出てネイチャーゲームで自然を観察しながら仲間と歩き、夕食後に交流会を開いて、親睦の輪を広めました。



ネイチャーゲームの説明を受ける参加者たち  
(山口徳地青少年自然の家)

## 学生環境セミナー 2日目、発表・講演・ワークショップ

2日目のプログラムは次のとおりです。

- ・環境サークル等活動報告：山口県立大学「エコアクション21学生委員会」、山口大学「エコファイ

ターズ」、宇部フロンティア大学「グリーン×グリーン」

・講演：

「宇宙からの環境観測」、田中佐 山口大学教授

「エコ・リーグ(全国青年環境連盟)って？？」、

三好直樹 全国青年環境連盟（エコ・リーグ）副

代表理事、鳥取県立大学大学院生

「エコアクション21：大学環境マネジメントの意

義と学生環境活動への期待」今村主税 山口県立

大学助手

- ・テーマ別ワークショップ：キャンパス環境マネジメント、ゴミを減らす4R、エコバッグ推進、森林・自然保護、温暖化防止などのグループに分かれ、学生を中心に現状の問題点、改善方法、私たちにできることなど、意見を交換

- ・エコクラフト「マイ箸」つくり：中国の森林伐採による割り箸のもったいなさに気付き、木の枝を削ってマイ箸を作る

- ・教員等意見交換：大学での環境教育を強化する方策、環境セミナーを公式の単位化する試案について

・全体会合

グループ討議結果を発表

山口県助成の「住み良さジャンプアップ協働研究事業」（エコバッグの作成）説明

閉会挨拶

報告や講演から環境問題の重大さを学び、また県内の学生環境活動や全国のエコ・リーグの動きについて理解を深めることができました。ワークショップでは、意見や立場の違いを認めつつ、学生・市民として身近な生活の中でできることを共に考え発表をまとめました。



ワークショップでのグループ討議

## おわりに

山口県エコキャンパス取組促進協議会が主催する初めての学生環境セミナーで、参加者が1泊2日の時間と場を共有し、共に環境問題を学び、意見交換や交流ができたことは大変有意義でした。アンケートでの評価も高く、是非来年も継続したいと願っています。

実行委員は、これを機会に環境関連の情報共有のため学生MLを準備中です。本学内外で学生の環境活動がさらに活発化し、環境意識の啓発をはかり行動する学生が増えること、そして環境に関わる市民や自治体、企業とも交流・連携が進むよう、大学での支援や励ましをお願い致します。

**謝辞：**山口県学生環境セミナー2007の実施にあたり、見学を引き受けてくださった(株)宇部衛生工業社、(株)西日本グリーン・リサイクル、宇部72アジススパホテル、松富農園の各位に感謝いたします。



堆肥化プラントの見学（㈱西日本グリーンサイクルにて）



学生環境セミナーを無事終えて、参加者一同充実の笑顔

学内連絡先  
TEL : 0836-85-9537  
E-mail : hitomim@yamaguchi-u.ac.jp

# 山口大学人文学部 異文化交流研究施設 第十五回講演会

## 「現代における芸術の本質的意義」

**吉永 幸恵**

人文科学研究科 地域文化専攻 2年



6月2日（土）、山口情報芸術センター（山口市）にて、今道友信氏（東京大学名誉教授、哲学国際センター所長）による講演会「現代における芸術の本質的意義」が開かれました。今道氏は美学者・哲学者であり、eco-etica（生圈倫理学）など、新しい学問の創始者でもあります。この講演会は財団法人山口市文化振興財団との共催で、会場も学外であったせいか、一般市民の方の参加が目立ちました。

### 自己矛盾の時代

この講演会の題目には「現代における～」とあります。その理由について、今道氏は「人は己の立つtopos（場）を知らねばならぬ。われわれの立つtoposこそが現代である。」と述べられました。

そして、現代という時代は、文化面では基本的人権の確立に伴う多くの権利の承認とその成果があつた時代であり、文明面では科学技術の躍進による技術連関が成立した時代だと説明されました。

次に「16世紀160万人、17世紀610万人、18世紀70万人、19世紀1940万人、20世紀1億780万人」という戦死者の数が示されました。現代の人間は、人権の確立や技術連関の成立を追い求めながら、より多くの人間を殺してきたのです。

今道氏は「この殺戮の時代とは自己矛盾の時代であり、それは非論理の時代であり、それこそ反哲学の時代である。」と述べられました。

### われら何をなすべきか

ここで、「戦争を前提とするようなnationalismの近代国家の桎梏の中で、一介の市民として何ができるのか」という問題提起がなされました。

私たちにできることは、美の実践者となり「どんな小さな事でも自分は世界美化に加担する」という気持ちを持って生きることだそうです。今道氏は、その基礎としての身の詩学の理念を持ち、現代における芸術の本質的意義の伏在する場を探索しなくてはならない、と説かれました。

また、数ある美の中で最も力強く私たちを変えられるのは芸術である。そして、そのような芸術を好きで観るのもいいけれど、月に一度か二度でいいから、本物の芸術作品に学ぶこと、人が作った精神の結晶に教わることをしてほしい、というメッセージを私たちに送られました。

今道氏は、本質的なことを丁寧に分かりやすく語られました。多くの人の心に深く響く講演であったと思います。



身の詩学を説く今道氏

学内連絡先  
人文学部藤川研究室  
TEL : 083-933-5234  
E-mail : fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp

# 私の授業

小谷 典子

教授

人文学部

(大学院東アジア研究科長)



2007年2月直島で調査中の一コマ

## 現実感覚を涵養する

### 社会学的想像力とは

社会学という学問は、現代社会の諸問題を客観的資料に基づいて分析し、将来を予測するという使命を負っています。したがって社会学の授業科目には、社会学的ものの見方と研究方法とを身に付けるためのものと、自分たちの目の当たりにしている現実社会が抱える問題を見い出すためのものがあります。

何よりも必要なことは、学生たちに、自分の生活からかけ離れた社会的現実に好奇心をもってもらうことです。誰しも自分の問題には大きな関心を持ちますが、それを社会の問題につなげてとらえることができる能力、いわゆる「社会学的想像力」を養うことです。

### 社会調査士の資格

社会学の方法の修得に関わる「社会学調査実習」の授業では、学生自身の問題意識を大切にして調査テーマを導き出し、調査企画して実施し、調査データを分析して調査結果をまとめてもらいます。この授業は、「社会調査士」(学部卒)、「専門社会調査士」(大学院修士修了)の資格認定のために必要な授業になっており、昨年

度は、この資格を活かして就職した学生もいました。ちなみに、教える側のわれわれは、「専門社会調査士」の資格を取得しています。

平成19年度は、最近話題になっている若者の仕事離れ、いわゆるニートをうみだす社会的背景を探り出すことをテーマに、高校生とその保護者に対するアンケート調査を行いました。引きこもりがちの性格や高校生活の問題点、親のしつけの問題点などが浮き彫りになりました。

### 現代社会を考える

「現代社会論」という授業では、私自身が社会学的想像力を發揮して、その時々に導き出した社会問題を、どのように社会学的に解明していくかを、自分の研究を具体例として披露するよう心がけています。自分自身が面白いと思って講義していくれば、その面白さが以心伝心で伝わっていくと確信しているからです。

最近は、「企業の社会貢献とまちづくり」について研究していますので、企業も参画した環境問題の克服、企業メセナ(企業の文化芸術活動支援)と現代アートを介したまちづくりをテーマに、新潟

県の越後妻有地域、香川県直島町、わたらせ渓谷鉄道沿線でのアートプロジェクトなど、フィールド調査で得た事実を交えながら講義しています。

### 学生と教師の授業評価

学生たちは卒業時に卒業論文を作成します。卒論のテーマとして何を選択するかを見ていると、4年間で彼らの好奇心がどこまで広がってきたかを知ることができます。社会的現実感覚を涵養する機会をほとんどもたずに入学てくる学生が増えてきていることは明らかで、社会学の授業を通じて、どれだけ社会学的想像力を育てることができたかのメルクマールになります。

また、学生の授業に対する評価は、学生に対してアンケート調査をやるまでもなく、彼らの態度を観察していると、たちどころにわかります。社会学的るものを見る能够性という特技はこのあたりにも役立ちます。

学内連絡先

TEL・FAX : 083-933-5236

E-mail : otani@yamaguchi-u.ac.jp



タクラマカン砂漠の塩が集積した表土、かちんこちん

## 私の研究

荒木 英樹

助教

農学部 附属農場

### ストレスのなかにいる作物のことを知る

#### 農学部附属農場が主戦場

私の研究の主戦場は農学部附属農場です。全国の農学系学部は、ほぼ全て農場などの演習施設を有しています。なぜなら、農学は基礎研究と応用研究を両立しなければならない学術分野であるためです。実地での検証なくして農学研究の成就なし。私も農学部の一員として、上記の信念に基づき農場で研究を進めています。

#### 植物には辛いご時勢

私の研究の主題は「環境ストレスと作物の生産」です。環境ストレスとは、具体的には水欠乏や過湿、養分の多寡、日照不足、高低温などをいいます。昨今、日本の夏は「お日様サンサンの恵みの夏」というよりは「刺すような日差しの殺人猛暑」といえるかもしれません。また、日本には夏の前に長期的な「梅雨」があり、作物根がいじめられます。事実、イネやダイズ、トマトなど主要な農作物で、高温障害や過湿害などが、近年多く報じられるようになってきました。

私はこの問題を解決する糸口のひとつが「根」にあるのではない

かと考えています。昔から農家は元気な「根づくり」を心がけてきました。厳しい環境ではことさら根の機能が大切です。しかし、植物根は未解明な生理や機能がまだ残された器官であり、研究の余地がたくさんあります。そのひとつが養水分吸収機能です。私は、作物根の養水分吸収が、環境ストレスによってどのような影響を受けるのか、どうすればダメージを軽減できるのか、という課題を中心に研究を進めています。研究の成果が、過酷な環境を克服する「根づくり」「作物づくり」につながれば、いいですね。

#### 世界は水不足

環境ストレスのひとつに乾燥があります。ここ数年、幸いなことに科研に採択されたり、他大学のプロジェクトに参加させていただいたりして、何度も海外のフィールドで栽培試験を行うことができました。そこから得られた学術的な成果もさることながら、現地で水問題を肌で感じることができたことも、私にとって大きな「研究的興奮」となりました。世界の水

資源は大丈夫か？作物を1kg栽培するためには、300～1000kgの水を要します。乾燥した土地ではさらに多く必要になります。水には限りがあります。21世紀が「水の世紀」といわれる所以を、現地で感じました。

#### ふと農場に目を向ければ

最近の学生は野外活動の経験が乏しく、バーチャルな暮らしの中にいます。正直、人間関係もどこかぎこちないように見えます。そういう彼らにとって、皆と協働して働く農場実習は「ヤバい」ようです。しかし、農場実習で不器用に働く彼らと一緒にいると、農場でのフィールド教育に新たな価値が見出される日も近いと確信します。彼らの前時代に育った私は、農場や乾燥地での栽培研究に要する「創意」「工夫」に無限の興奮を覚えます。そういう農学研究の楽しさ、醍醐味を伝えなければいけませんね。もっと努力しないと。

学内連絡先

TEL : 083-933-5920

E-mail : ahide@yamaguchi-u.ac.jp

# 私の研究



小川 勤  
教授

大学教育機構 大学教育センター



Duman中等学校（シンガポール）の校長と筆者（右）との意見交換

## アジア地域の人材育成を研究する

### 3つのキーワードと私の研究

人からあなたの研究はどんな分野ですかと聞かれると、私はいつも「比較教育」あるいは「教育開発」と答えることにしていて。私の研究分野をキーワードを使ってあえて表現すれば「情報人材」、「高等教育」、「アジア地域」の3つのことばで表すことができます。「情報人材」とはソフトウェア開発に携わる情報技術者を研究対象にしています。また、「高等教育」というのは大学や高等専門学校等における職業教育あるいは技術教育の教育内容を研究対象にしています。さらに、「アジア地域」とは東南アジアの国々やBRICsに属するインド、中国を研究対象にしています。これら3つのキーワードをリンクする共通概念としては、「人材育成」あるいは「教育、訓練、技術開発政策」となります。すなわち、私の研究はアジア地域の国々を研究対象として、国際分業化が進行するソフトウェア開発分野において、情報技術者がどのようなメカニズムによって育成されていくのかを明らかにすることです。また、中央政府が実施する技術開発政策が、高等教育機関や

公立学校の教育内容やIT企業内で実施されている教育訓練に対してどのような関係を持っているのかを分析しています。これらの研究を通して情報人材を効率よく、有効的に育成するためには国全体として組織的にどのような人材育成システムを作ればよいのか、すなわち「情報人材育成モデル」の構築を目指して日々研究を行っています。このため、東南アジア地域の高等教育機関や公立学校を訪問し、そこで行われている教育や訓練の内容（カリキュラム、教育訓練方法等）について調査・分析を行っています。

### 大学教育センターと研究

現在所属している大学教育センターの業務と私の研究は一見するとあまり関係がないように思われますが、センターの業務を担当していると今までに海外の高等教育機関における教育制度や教育カリキュラムを研究してきたことが本学のカリキュラムの改訂やFD(Faculty Development: 教員の能力向上)活動を考える際に役立つことがあります。例えば、大学におけるFD活動を考える際に、

海外の高等教育機関で日常的に実施されているピア・レビュー等の教員相互評価や学生授業評価の状況が本学の教育改善を考える際に参考になることが多いです。

今後は、情報技術者の育成に関する研究とともに高等教育そのものを対象にした研究も推進していくたいと考えています。特に、FD活動の評価に関する研究を推進していくたいと考えています。2007年度からは大学院教育におけるFD活動が義務化されました。これに引き続いて来年度からは学士課程におけるFD活動が義務化されます。したがって、学部や研究科すでに実施されている授業研究以外の教育改善活動や学習支援活動をも含めた広い意味でのFD活動を組織的に取り組むことが求められています。

このような組織的なFD活動への取り組みに対しては、その活動の妥当性や有効性についての効果の検証が重視されると考えていますのでこの分野の研究を今後は推進していくたいと考えています。

#### 学内連絡先

TEL・FAX : 083-933-5085

E-mail : ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp

URL : <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/>

# 教員から寄せられた著書



## 戦略的技術マネジメント

(久保元伸・福代和宏・松浦良行：訳、上西研：監訳 (George Tesar 他 著) 日本評論社 2007年5月15日発行)

技術は真理探究を目的とした純粹科学とは異なり、使われなければ価値はありません。また、新しく生み出された技術はそれが革新的なものであればあるほど実用化が自然に進行することは稀であり、相互依存性<sup>①</sup>や経路依存性<sup>②</sup>と関係した多くの課題の克服が必要となります。これは革新的技術の実用化は「技術開発」という単発の出来事ではなく、多くの要因からなるプロセスであることを意味します。従って、一連のプロセスのマネジメントの巧拙が実用化の成否を決める、といつても過言ではありません。

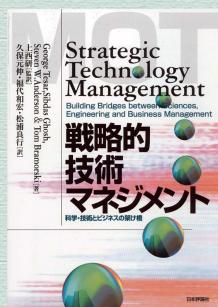
本書は新技術の実用化におけるマネジメントについて、マネジメントに必要な視点・考え方を示した後、実用化の事例を収録したもので、技術経営教育などの教材として著されています。本書では世界的企業から大学発ベンチャーまで幅広く扱っており、書かれている状況も企業・組織が直面する課題や失敗事例も多く含まれるなど、教材としての配慮がなされています。原著は自然科学系学者2人と社会科学系学者2人によって編集された

ユニークなケース集で、新技術の実用化に関係する者は産学を問わず、強固な科学的素養に加えて、マネジメント・スキルを統合して備えている必要がある、と強調しています。訳出に当たっては原著の編集体制に倣い、技術経営研究科の技術系およびマネジメント系の教員が連携して行いました。副題は「科学・技術とビジネスの架け橋」となつておらず、本書が目指しているものを汲み取っていただけると思います。

註：1) 技術は他の技術と組み合わされてある機能を発揮するのであって、単一の技術だけで成り立っている製品やサービスは無い。このような技術の特性を表現したことば。

2) 相互依存関係にある技術の制約を受けて、常に最善の技術が使われるとは限らない。コンピュータのキーボードの文字配列(アルファベット順でない)などがその一例。

久保元伸 教授 大学院技術経営研究科  
TEL : 0836-85-9947 E-mail : kubomo@yamaguchi-u.ac.jp



## 現代の社会学的解説：イントロダクション社会学

(山本努 辻正二 稲月正 学文社 2006年10月発行)



本書は、急激に変化する現代社会を社会学的に解説する手法と診断を目指した社会学の専門書です。ただ、本格的な専門書というより、初めて社会学を学ぶ人びとや新しい研究動向や研究視角を模索している人びとを読者に想定しています。その意味では、社会学の入門書、啓蒙書といえます。当然、社会学の理論や概念も盛り込んでいますし、社会的現実を実証的に研究した現状分析論の成果も盛り込んでいます。

全体の編構成は、「第1章 人間・文化・社会」、

「第2章 集団・組織」、「第3章 家族」、「第4章 都市」、「第5章 農山村」、「第6章 社会階層と社会移動」、「第7章 逸脱行動と社会統制」、「第8章 グローバル化とエスニシティ」で、全てといわなくても、社会学のほとんどの領域を射程にした内容となっています。この書を学ぶことから社会学の面白さを知っていただいたり、いま日本の社会が抱える社会問題を解説する手法を身に付けていただいたりできれば編者としては幸甚です。



辻 正二 教授 人文学部／時間学研究所所長  
TEL : 083-933-5976 E-mail : tsuji@yamaguchi-u.ac.jp

# 教員から寄せられた著書



## 纒纒 厚『監視社会の未来』

(小学館 2007年9月発行)

近年、「監視社会」なる用語が現代日本社会を特徴づける言葉として使用されるケースが増えています。戦後日本社会は、戦前社会の歪みを教訓としながら、社会の構成員が平等で自由な権利行使することで、市民社会・自由社会の構築に向けて出発しました。それは日本国憲法が示すところでしたが、今日、自由・自治・自立の民主主義の価値観が揺らぎはじめ、統制・動員・管理の軍事主義とも表現し得る価値観が前面化しています。

そこでは、権力による赤裸々な抑圧や暴力が手控えられ、安全と安心の確保を理由に、自由や平等の価値意識を後退させる現実があります。そのような社会が固定化される方向において登場してきたのが監視社会です。私たちの手から自由や平等の権利が滑り落ちていく状況を私たちは気付かないか、安全と安心の確保のためには避けられないと判断しているのか、定かではありません。ただ、ハッキリしていることは、私たちの社会があらゆる現代ツールを導入しながら、監視社会への道を歩んでいることです。『監視社会の未来』は、そのような現代社会の実態分析のために、過ぎ去った「監視社会」であった戦前社会の分析を行っています。本書は、「監視社会」の未来を阻むための方法の所在を歴史研究の成果によって提示する

ものです。なお、本書の表紙には山口県出身の香月泰男画伯のシベリア・シリーズから「-35°C」の作品を使わせて戴いています。

私は昨年(2006年)5月、韓国における安全保障問題、国際政治を専門領域とする研究者集団である韓国平和統一研究所の海外研究员に就任しましたが、そこで研究者間での研究交流を通して、このたび、10人の研究者による論文集『전환기 한미관계의 새판짜기』(転換期韓米関係の新しい枠づくり)を出版しました。私は、この論文集に「현대 일본정치의 군사화배경과 미일동맹」(現代日本政治の軍事化背景と日米同盟)と題する論文を寄稿しています。

南北朝鮮のサミットが今年5年ぶりに開催されるなど、朝鮮半島情勢が大きく変容しようとするこの時代にあって、いわゆるアジア新冷戦構造が完全な終焉を迎えるには、南北朝鮮とアメリカとの関係の根本的な見直しが不可欠です。南北が過去の怨嗟を超えて主体的な統一を果たすためには、何よりもアメリカの対朝鮮、対アジア外交および軍事戦略の転換が求められます。そのような方向を確実にするためにも、日本の軍事化は、これから時代と新アジア冷戦構造の解体への方向に逆行することを私の論文は強く主張しています。

纒纒 厚 教授 人文学部 人文社会学科  
TEL : 083-933-5278 E-mail : koketsu@yamaguchi-u.ac.jp



## 新TOIECテスト はじめてでも600点が取れる！

(山根和明 アラン・クリスト 成美堂出版 2007年10月発行)

「新TOIECテスト はじめてでも600点が取れる！」をこの10月に出版いたしました。従来の問題集とは違ったゲーム感覚の切り口で初級者でも楽しく学べるようになっています。

最大の特色は、声で講義している点です。これにより難しいと思えるTOIECが非常に分かりやすくなっていて、入門者には最適の問題集となっています。

この問題集は非常勤講師のアラン・クリスト先生にほとんど問題を作っていただき、解法・解説を私、山根が行ったものです。CDにおいてカナダ人の声優はアラン先生ご自身で演じられています。リスニング部門の特色としては、特にイギリス発音とオーストラリア発音を多く入れている点

です。この2つはなかなか練習できないので、この機会に徹底的に聞き込みシャドーイングすると良いと思います。

この本のもう一つの大きな特色は第3章です。ここは普通の問題集と違って左に問題、右に解説・解答と1ページごとに説き方を学んでいくスタイルになっています。リスニング部門でさえCDをそれぞれストップさせて、理解して進む形ですので、しっかり力がつくと思います。

このやり方が学習者に受け入れられて、11月に入つて早くも「重版決定」という知らせが出版社より入りました。全国にTOIECを楽しく勉強する人たちが増えれば本望です。

山根 和明 准教授 経済学部 観光政策学科  
TEL : 083-933-5568 E-mail : yamane.k@yamaguchi-u.ac.jp



# 平成19年度公開講座のお知らせ

講 座 名 ・ 講 師 名	受講対象者	開講期間	時間帯
今日から始めるグリーンライフ講座 講師：高橋 肇（農学部教授）、執行正義・藤間 充・竹松葉子（同准教授）、荒木英樹（同助教）、嘉村則男（同技術専門職員）、長砂光治・谷口和也・井上敬之・高田 晓（同技術職員）	市民一般	8/31、10/5、 11/30、H20.2/29	10:00～15:00
「現代の教育問題」を読み解く 講師：小川 勤（大学教育センター教授）	教育関係者ほか	10/6、13、27、 11/17、24、12/1	14:00～15:30
やまぐちサタデー・カレッジ2007（外国語学習コース：フランス語） 「星の王子さま」をフランス語で読む 講師：井上三朗（人文学部教授）	市民一般・学生	10/6～12/1 (毎週土曜 計8回) ※11/3を除く	13:30～15:00

お問い合わせ・申し込み

## 山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

**TEL(083)933-5059 FAX(083)933-5154**

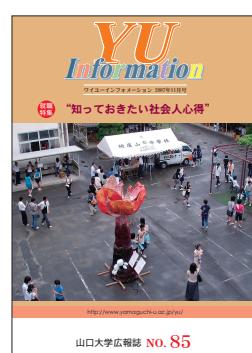
E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp

・電話受付の場合：月曜～金曜 8:30～17:00 (土・日・祝祭日は除く)

## 表 紙 説 明

例年9月に行われている学園祭が、今年は校舎の耐震補強工事の関係で7月7日～8日に行われました。附属山口中学校の学園祭は、全校生徒の話し合いによって設けられたテーマに基づいて、様々な企画班が多種多様な活動を展開します。その中で毎年重要視され、精銳が集まるのがシンボルタワー制作班です。構造については、青森のねぶたを見聞した担当教諭が、そのノウハウを取り入れて昨年から指導にあたりましたが、どんな形にするかは生徒の話し合いで決まりました。近年は、初日の文化部門で中庭に、2日目の体育部門ではグラウンドに設置するため、風雨に耐える強度と防水性が要求されます。このところ、3メートルを優に超す巨大なものをつくる傾向にありましたので、自重に耐え、観衆に危険の無いような構造でなければなりません。校舎内の天井をはるかに超えるため、途中から屋外でつくるなければなりませんが、例年は台風も想定され、頭を使うこと必至でした。

第34回に当たる今年のテーマは、「強さ」に決まり、集まった生徒によって強さのイメージをどのような形に表すか、議論を尽くしました。



今年度の学園祭テーマは「強さ」。私たちシンボル制作班は「強さ」と「附中」両方を象徴する「Strong tower ~made in 附中~」の制作を行いました。「強い」という言葉は幅広い意味で使われます。腕の力が強い、意志が強い、野球が強い…。しかし私たちが表現したかったのは、あくまで「心の強さ」です。大きさや色合いなどで見る人に「強い」と感じさせることはできても、「本当の強さとは何なのだろう?」と考えさせたり、「『強さ』とはこういうことだ」と気づかせたりすることはとても難しいことだと思います。そのような意味で、デザインを考える過程でも、実際につくる過程でも、出せる力を出しきったことで、私たちの中に「強さ」が育まれたと思います。このシンボルが本物の「Strong tower」になるかどうかは、あとは見るみなさん次第です。

教育学部 附属山口中学校 第34回学園祭 シンボルタワー制作班長 杉本 梢（3年）

# 新聞掲載された山大・地域から見た山大

## 7月

- ◆ 水害学んで地域防災を  
－農学部山本晴彦教授－  
　　美川中（岩国）と山大が研究  
　　最新機器で気象観測など  
　　(読売:1日、山口:11日)
- ◆ 山大公開講座で地産地消  
　　県産小麦パン作りを学ぶ  
　　(サンデー山口:1日、読売:8月22日、山口:8月23日)
- ◆ 山口大病院でメーク療法  
　　女性外来 美容部員がアドバイス  
　　(読売:2日)
- ◆ NEDO「先導研究」に  
　　山口大・宇部興産 コンビナート関連  
　　(日経・毎日:3日、山口:4日、中国:7日)
- ◆ 一票の思い  
　　農業や高等教育に力を  
　　丸本卓哉・山口大学長 (65) (朝日:4日)
- ◆ 旧山大教育学部校舎プレート  
　　中原さん（萩）大学譲渡へ  
　　「孫娘の合格記念に」 (読売:4・10日)
- ◆ 先輩の体験談熱心に  
　　山大で就職活動交流会 (毎日:4日)
- ◆ Newsクリック やまぐち  
　　[山口大医学部の若手医師不足]  
　　[地域医療崩壊の恐れ]  
　　新制度導入後、2～3割減  
　　研修先選択でき都会に集中 (毎日:5日)
- ◆ 不審者対策児童が訓練  
　　大内小で大学生協力 (中国・読売:5日)
- ◆ 農水産物加工共同研究へ  
　　山口大と県部会新設 (中国:5日)
- ◆ あす イベント盛りだくさん  
　　山大で七夕祭 (サンデー山口:6日)
- ◆ 厚東川大橋旧橋宮本教授らが調査  
　　維持管理システム開発で (読売・朝日:7日)
- ◆ 山口大が教員養成事業  
　　卵と新人 ちゃぶ台囲む  
　　4年生と新任教師 悩み語り合い研修  
　　(中国:10日)
- ◆ AED設置救急ステーション  
　　22自動車学校を認定 (読売:13日)
- ◆ 教師力大学編 教育ルネサンス No621  
　　授業公開 根強い抵抗感－松井範惇教授－  
　　(読売:13日)
- ◆ 今、改めて学びたい  
　　－エクステンションセンター長長畠実教授－  
　　地方の大学に短期留学  
　　文学・歴史・・・まなざし真剣  
　　(日経:15日、サンデー山口:23日)
- ◆ 山大08年度入試要項  
　　(山口:20日)
- ◆ 防犯活動で地域の力に  
　　[YUSA] 山口大生がボランティアサークル  
　　パトロールや放置自転車撤去  
　　成果をキャンパスで生かす  
　　(中国:20日、読売:21日)

- ◆ 乳がんを正しく知ったら、ちょっとだけ気持ちが楽になった  
　　正しく知ろう乳がんの  
　　－大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科  
　　学教授・岡 正朗氏－ (読売:21日)
- ◆ 国立大、地元貢献に活路  
　　[経済効果、「年667億円」] [山口大]  
　　(朝日:23日)
- ◆ デュニア科学教室が開講  
　　多彩な18講座 講義や実験で探求心を刺激  
　　(宇部日報:23日)
- ◆ DVやエイズ予防の視点で性教育考える  
　　周南で公開講座 (中国:25日)
- ◆ 「川の日ワークショップ」  
　　山大教授活動グランプリ  
　　－山大大学院理工学研究科関根雅彦教授－  
　　ホタル復活研究や実践 (山口:25日)
- ◆ 観光客の消費動向調査 山口大と萩市が共同で  
　　効果的な戦略へ 使用金額、土産物内容など  
　　(読売:26日)
- ◆ 佐伯准教授（山大大学院理工学研究科）開発の  
　　[界面活性剤ベース]  
　　省エネ配管抵抗低減剤の導入広がる  
　　電力とCO<sub>2</sub>削減に効果 (宇部日報:25日)
- ◆ 学び直し事業 中国地方12校  
　　再就職支援文科省が委託  
　　山口大は二事業が採択 (中国:28日、8月1日)
- ◆ 広がれ！ごみ資源化の輪  
　　－山大工学部エコファイターズ－  
　　紙バック回収で一役 (宇部日報:26日)
- ◆ 患者らが歌や軽音楽楽しむ  
　　－山大付属病院でコンサート－ (宇部日報:27日)
- ◆ 命をつなぐ＜AED設置＞救急ステーション！  
　　[山口県救急業務高度化推進協議会 会長]  
　　前川剛志氏に聞く  
　　消えかけた命を救うには・・・。  
　　1分除細動が遅れるごとに救命率は7～10%減少  
　　(読売:31日)
- ◆ 宇部、山陽小野田市が地域指定  
　　－糖尿病実態調査－  
　　[食事や運動療法の効果] 予備軍対象に検証  
　　山大大学院理工学研究科の奥田昌之教授  
　　(宇根日報:31日)

## 8月

- ◆ 「同様の被害起こりうる」  
　　－大学院理工学研究科金折裕司教授－  
　　中越沖地震山大調査班が分析  
　　柏崎と似た地番  
　　小郡－防府、山陽小野田、萩など (読売:1日)
- ◆ ソーラーカーレース鈴鹿  
　　山大チーム3年連続出場  
　　3日から「昨年上回る成績を」 (読売:1日)
- ◆ 山大生3人のロックバンド  
　　「PINCH COX」中四国大会へ  
　　若手新人の音楽コンクール (宇部日報:8日)
- ◆ 山口連歌復活の兆し  
　　－尾崎千佳・人文学部准教授－  
　　[仁壁神社] [江戸後期の資料確認]  
　　市民の間で親しむ動き (毎日:4日)

- ◆ 山大にグッドデザイン賞  
—ソーラーカーレース鈴鹿—  
竹と紙で車体製作 (読売:6日)
- ◆ 子どもの絵「解体新書」  
—教育学部福田隆真教授監修—  
山口県内の教師ら指導法出版 (中国:7日)
- ◆ 若者も尺八親しんで —宇部18日出演—  
山大邦楽部“寸劇”など練習に熱(山口:8日)
- ◆ 医療携わる人材育成へセミナー  
—山口大と県— (読売・中国:9日)
- ◆ 脳卒中や心筋梗塞の予防には、血圧コントロールが重要です。  
「十分に血圧を下げること。それが、重大な病気を予防します」  
—大学院医学系研究科松崎益徳教授—  
(朝日:10日)
- ◆ 山口大入試 大阪でも —中国地方の国立大で初—  
来年度 工学部、理系離れ対策 (中国:10日)
- ◆ 26日オープンキャンパス  
山口大MOT専門職大学院(宇部日報:10日)
- ◆ 梶野川(山口)ホタル復活に成功  
—山大大学院の関根教授—  
韓国・晋州で取り組み発表へ (読売:11日)
- ◆ 『科学』を歩く  
スピーチプライバシー保護装置  
個人情報気にせず会話  
—大学院理工学研究科(宇部市)佐伯徹郎准教授—  
ノイズ使い子音操作 (中国:17日)
- ◆ 山大留学生も参加夏祭りあす開催  
—山口・吉敷の下東で— (読売:18日)
- ◆ あの人この人 話題の人  
自分の力で被害防いで  
—水害被災地の中学生と被害研究を進める  
防災士山本 晴彦さん(農学部教授)—  
(読売:20日)
- ◆ 「学宝展」気軽に見て —山大埋蔵文化財資料館—  
10月12日まで 吉田遺跡遺物72点  
(山口:21日)
- ◆ 団体・山口大Aが優勝  
西日本看護学生弓道選手権 (読売:21日)
- ◆ 日韓青年交流、世界青年の船参加  
山大生3人壮行式 —県庁で—(山口:22日)
- ◆ 医療の担い手育てる  
山大医学部セミナー  
高校生が模擬手術体験 (宇部日報:22日)
- ◆ 県内で摘発のケース相次ぐ  
—山大保健管理センター—  
一晩寝ても飲酒運転  
分解できる酒量の目安 燃酌では1.1合  
(中国:24日)
- ◆ 癒しのアンサンブル  
山大管弦楽団員がコンサート  
(宇部日報:23日)
- ◆ 中越沖地震の被害状況など  
—市町防災担当者会議—  
山大金折教授や保健師報告 (山口:28日)
- ◆ 人 日本・韓国青年親善交流事業に参加  
山本恵さん  
交流拡大で意識変えたい (宇部日報:24日)
- ◆ 山口大の色素研究に助成 —NEDO—  
農学部 藤井克彦准教授— (中国:28日)

- ◆ 健康づくりシンポ 意識調査基にニーズ探る  
星野さん(山大大学院講師)講話「人生の充実感も」 (宇部日報:27日)
- ◆ 寄稿 山大大学院教授 山本 哲朗  
緊急地震速報の期待と課題 (山口:29日)
- ◆ 救命救急センター改装 —山大付属病院—  
来月から運用 計20床を集中管理  
(読売・山口・宇部日報:29日、中国:9月15日)
- ◆ 県不登校フォーラムに350人  
平生中の対策事例「校内外連携で効果」  
山大教育学部大石英史教授「揺らぎ」期の対応大事 (山口:30日)
- ◆ 大学生が警察学校に  
—人文学部4年山本耕三さん—  
インターンシップ 人命救助など学ぶ  
(山口:30日、宇部日報:31日、読売:9月2日)

## 9月

- ◆ 「知的財産」授業で教える  
—文科省プログラムに採択—  
通常科目から著作権など関連語抽出  
山大・木村友久教授発案 教員志望学生が指導案作成へ (読売:1日)
- ◆ 山大附属病院 松崎院長  
日本動脈硬化学会賞に輝く  
世界に先駆け 経食動内心エコー(読売:5日)
- ◆ 山大大学院の山本哲朗教授  
厚陽小で防災授業  
地震の仕組みを説明 (山口:6日)
- ◆ 参加大学増え全国標準に定着  
—工学系数学統一試験—  
山大が広大と共同開発  
技術系人材の基盤強化へ (宇部日報:4日)
- ◆ 防災 中学生も学ぶ  
—山本晴彦・山口大教授が講演—  
台風14号から2年旧美川町  
被災者から聞き取りも (朝日:7日)
- ◆ 山大公開講座 —萩焼と山口の大地—  
(サンデー山口:7日)
- ◆ 編さん講演会  
人文学部田中誠二教授  
「萩藩の本・支藩関係」(サンデー山口:7日)
- ◆ ひらめき☆ときめきサイエンス  
—農学部山本晴彦教授—  
～ようこそ大学の研究室へ～  
(サンデー山口:7日、山口:19日)
- ◆ 山田グループ会長 1億5000万円を寄付  
「山大の研究所建設費用に」 (読売:12日)
- ◆ 計算式でホタル増やせ  
山大工学部教授関根 雅彦さん(朝日:17日)
- ◆ 生産現場「生中継」の授業  
山口大学院技術経営研究科=アクシス  
新幹線部品の加工工程学ぶ  
(日経:19日、朝日・山口:22日、宇部日報:10月26日)
- ◆ 山大の理系で初 聴覚障害学生受け入れ  
農学部獣医学科二川さんの入学機に  
講義を工夫、支援の輪  
大学全体 教育改善にも一役  
(宇部日報:14日、読売:22日)

- ◆ 200周年を前にビジョン策定へ  
－山大学長が発表－ (山口:21日)
- ◆ ホタル観賞施設整備 －山口大－  
来年、幼虫1000匹を放流  
(毎日・読売:21日、中国:10月6日)
- ◆ 教育問題研究の小川勤教授  
山大で 来月から 6回公開講座  
いじめ自殺考える (読売:21日)
- ◆ 菊屋吉生・山大教授 藤田隆治語る  
－下関市立武術館－  
生命感あふれる画風 『無心』に特徴  
(西日本:22日)
- ◆ 古代の道具で赤米刈り取り  
－山口大の実習農場－  
山口大埋蔵文か財資料館主催の公開授業  
(朝日:26日)
- ◆ 西田教授(山大)に日本医師会医学賞  
角膜治療法2つ確立  
世界初の技術「次世代の医師育てたい」  
(読売:27日)
- ◆ 日本脳炎室内犬に抗体  
「人も感染の恐れ」山口大前田健准教授ら  
調査  
ワクチン中断に懸念 (中国:27日)
- ◆ O Bも久しぶりの道衣  
山口大医学部 少林寺拳法部30周年祝う  
(宇部日報:28日)

## 10月

- ◆ 山口大生落語で交流授業 －岩国の美川小一－  
(中国:2日)
- ◆ 学 海のギャング襲来音で探知  
有明、瀬戸内のアサリ食い荒らす  
山口大大学院・閔根教授  
ナルトビエイ分析 撃退へ (読売:2日)
- ◆ 17日から「エコ・テクノ」  
山口大工学部など出展  
環境技術交流を促進 (宇部日報:4日)
- ◆ 中国との古代の交流など学ぼう  
－中国の考古学者 王教授が講演－  
\*15日 山口大で  
(読売:5日、サンデー山口・朝日:13日)
- ◆ 山大医学部で献体者を慰靈  
500人冥福祈る (朝日・読売・宇部日報:6日)
- ◆ 寸劇や演奏に拍手 －山口市－  
山大が「文化の宝箱」 (毎日:8日)
- ◆ 山口大は2位 －中国地区野球2部－  
(朝日:8日)
- ◆ ベンチャー 仕掛け人  
新薬開発 計算でコスト減  
－山口大大学院教授 堀憲次氏－  
(日経:11日)
- ◆ 若さあふれる秋季定演  
－山口大医学部軽音楽部－  
軽快なリズム広がる (宇部日報:12日)
- ◆ 山大に感染免疫学研究室 －農学部獣医学科に－  
西垣准教授「正しい情報、解説を提供」  
(読売:13日)

- ◆ 山大で環境問題シンポ  
6団体が活動紹介  
(宇部日報:11日、毎日:14日)
- ◆ ラオス教育省から感謝状  
理科教員養成 山大の阿部教授に  
(読売:14日)
- ◆ 本格運用スタート －山大電子書庫－  
ネット上で論文など公開 (山口:17日)
- ◆ 17件に最高評価 －大学院教育財政支援策－  
文科省 山大は「目標ほぼ達成」  
(山口:17日)
- ◆ 26日に「ものづくりシンポ」  
山口大工学部付属創成センター  
感性取りいれた商品開発テーマ  
(宇部日報:17日)
- ◆ 下関・橋崩落から1か月  
県警「解明は長期化」  
事故検討委「年内めどに調査結果」  
－古川浩平・山口大学工学部教授－  
(読売:18日)
- ◆ I Cカードで旅の軌跡  
山口大経済学部 観光動態調査へ実験  
(中国・山口:20日)
- ◆ 仁保地区の野猿被害防げ  
山大生らが集落環境調査  
(読売:20日、山口・朝日:22日)
- ◆ ほろ苦いデビュー戦 －九州一周駅伝－  
井上 恒志郎選手(山口大学)  
(西日本:22日)
- ◆ 環境首都への道  
－第六章 教育現場の取り組み ⑤  
自主活動の枠を超える  
広がるエコキャンパスの輪  
－山口大工学部村上ひとみ准教授－  
(宇部日報:26日)
- ◆ 聴覚障害の学び支える  
要約筆記、マイク活用・・・  
市民団体がシンポ 山大、取り組み始める  
(朝日:27日)
- ◆ 動物介在情操教育のすすめ  
－山口大学農学部教授早崎峯夫氏に聞く－  
人と人との相互信頼を築くために  
(読売:27日)
- ◆ 来月15日環境保全技術講座 －山口大工学部－  
(宇部日報:27日)
- ◆ 間近で活断層観察 －山大・科学教室－  
生徒ら地震のメカニズム学ぶ (読売:28日)
- ◆ あの人この人 話題の人  
ネギの可能性を追求  
－高機能ネギ開発に挑む  
山口大農学部執行正義准教授－  
(読売:29日)
- ◆ 山口大医師ら A E D講習会  
－来月4日のまつり会場－ (宇部日報:30日)
- ◆ 山大工学部で来月、環境技術展  
参加企業を募集  
(宇部日報:30日)

## 編集後記

本号は、就職活動に関する内容の特集号となっています。

形式的には、学生・教員・保護者・企業からの発言内容と、これまでと同様の構成となっていますが、以前のものと読み比べると、一段と「国際化」への流れの中に入ってきたな、との感があります。卒業生にとっては、自らの人生を決めるひとつの大きな決断の時であります。苟日新と古来からいわれるよう に、「前向きに物事を考えてほしい」と思います。

雇用形態にも任期制導入の会社が増えてきていて、短期間に結果を出すことが求められる（評価される）現実がそこにあります。困ったときには、同僚や先輩、恩師など周りの人びとの意見を素直に聴き、自分の考えをまとめる判断材料にして下さい。その一環として、本特集号が多少なりともお役に立てれば幸いです。

諸君の健闘を祈っています。

(武藤 正彦)

◎山口大学 Web ページ <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

## 「デジタル山口大学」放映のお知らせ

山口大学の大学活動を紹介する番組として、山口ケーブルビジョン(株)12chで毎月1日から15日15:30～15:45に放映しています。サービスエリアは山口市、防府市、宇部市、美東町です（平成19年7月現在、一部地域を除く）。

放送中の番組および過去に放送した番組は、山口大学Webページからご覧いただけます。

【URL】<http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~www-yu/digiyama/index/>

### ○12～2月の番組予定

優れた教員を育てるために～教育学部の取組み [12月1日(土)～15日(土)]

埋蔵文化財資料館第7回公開授業 (予定)  
「古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう2～」 [1月1日(火)～15日(火)]

人文学部の共育の取組みを特集 (予定) [2月1日(金)～15日(金)]